

基本計画書

基本計画									
事項	記入欄							備考	
計画の区分	学部の学科の設置								
フリガナ 設置者	ガクシュインガク								
	学校法人 学習院								
フリガナ 大学の名称	ガクシュインダガク								
	学習院大学 (Gakushuin University)								
大学本部の位置	東京都豊島区目白一丁目5番1号								
大学の目的	本大学は、総記の精神（本院はすべて社会的地位や身分にかかわらず広く男女学生を教育することを本旨として、教育基本法及び学校教育法に基づいて次の諸学校の学則の定めるところによつてこれらの男女に幼児の保育から大学教育に至る一貫した教養を与え、高潔な人格、確乎とした識見並びに近代人にふさわしい健全で豊かな思想感情を培い、これによつて人類と祖国とに奉仕する人材を育成することを目的とする。）に基づき精深な学術の理論と応用とを研究教授し、有用な人材を育成し、もつて文化の創造発展と人類の福祉に貢献することを目的とする。								
新設学部等の目的	教育学科の教育目標は、教育および社会に関する幅広い知見と教育に関する専門的な技能を獲得させ、発達の多様な可能性を探索・研究することである。次代を担う人々の成長を促進し共生社会を形成・創造するための資質・能力をもった人材を育成することを目指す。								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	
	文学部 (Faculty of Letters)	年	人	年次人	人	学士(教育学)	平成25年4月 第1年次	東京都豊島区目白1丁目5番1号	
	教育学科 (Department of Education)	4	50	—	200				
計	4	50	—	200					
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)	該当なし								
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
	文学部 教育学科	講義	演習	実験・実習	計	130 単位			
教員組織の概要	学部等の名称		専任教員等					兼任教員等	
			教授	准教授	講師	助教	計	助手	
			人	人	人	人	人	人	
	新設分	文学部 教育学科	10 (10)	1 (0)	1 (1)	0 (0)	12 (11)	0 (0)	15 (5)
		計	10 (10)	1 (0)	1 (1)	0 (0)	12 (11)	0 (0)	15 (5)
	既設分	法学部 法学科	19 (19)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	22 (22)	0 (0)	17 (17)
		政治学科	20 (20)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	20 (20)	0 (0)	58 (58)
経済学部 経済学科		20 (20)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	21 (21)	0 (0)	33 (33)	
経営学科		19 (19)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	20 (20)	0 (0)	43 (43)	
文学部 哲学科		9 (9)	1 (1)	0 (0)	2 (2)	12 (12)	0 (0)	36 (36)	
史学科		11 (11)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	12 (12)	0 (0)	22 (22)	

教員	学部等の名称		専任教員等					兼任 教員等			
			教授	准教授	講師	助教	計			助手	
組 織 の 概 要	既 設	日本語日本文学科	12 (12)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	13 (13)	0 (0)	38 (38)		
		英語英米文化学科	11 (11)	1 (1)	0 (0)	1 (1)	13 (13)	0 (0)	33 (33)		
		ドイツ語圏文化学科	5 (5)	2 (2)	0 (0)	1 (1)	8 (8)	0 (0)	22 (22)		
		フランス語圏文化学科	7 (7)	2 (2)	0 (0)	1 (1)	10 (10)	0 (0)	21 (21)		
		心理学科	8 (8)	2 (2)	0 (0)	2 (2)	12 (12)	0 (0)	23 (23)		
		理学部 物理学科	6 (6)	2 (2)	0 (0)	8 (8)	16 (16)	0 (0)	22 (22)		
		化学科	8 (8)	1 (1)	0 (0)	8 (8)	17 (17)	0 (0)	26 (26)		
		数学科	9 (9)	0 (0)	0 (0)	6 (6)	15 (15)	0 (0)	13 (13)		
		生命科学科	8 (8)	0 (0)	0 (0)	7 (7)	15 (15)	0 (0)	15 (15)		
		生命分子科学研究所	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	0 (0)		
		東洋文化研究所	0 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (2)	2 (2)	0 (0)	0 (0)		
		史料館	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	0 (0)		
		計算機センター	2 (2)	1 (1)	0 (0)	6 (6)	9 (9)	0 (0)	9 (9)		
		スポーツ・健康科学センター	3 (3)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	5 (5)	0 (0)	17 (17)		
		外国語教育研究センター	10 (10)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	12 (12)	0 (0)	139 (139)		
		学芸員課程	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	17 (17)		
		基礎教養	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	114 (114)		
			計	187 (187)	21 (21)	0 (0)	48 (48)	256 (256)	0 (0)	718 (718)	
			合計	197 (197)	22 (21)	1 (0)	48 (48)	268 (267)	0 (0)	733 (723)	
教員以外の職員の概要	職 種		専 任		兼 任		計		兼任＝法人本部職員で大学兼務発令のある者、契約職員、派遣職員		
	事 務 職 員		人		人		人				
	技 術 職 員		7 (7)		1 (1)		8 (8)				
	図 書 館 専 門 職 員		20 (20)		2 (2)		22 (22)				
	そ の 他 の 職 員		0 (0)		0 (0)		0 (0)				
計		145 (145)		20 (20)		165 (165)					
校 地 等	区 分	専 用	共 用		共用する他の学校等の専用		計		学習院高等科 600名 学習院中等科 600名 学習院幼稚園 104名		
	校 舎 敷 地	34,055㎡	3,302㎡		10,212㎡		47,569㎡				
	運 動 場 用 地	21,726㎡	17,588㎡		10,263㎡		49,577㎡				
	小 計	55,781㎡	20,890㎡		20,475㎡		97,146㎡				
	そ の 他	99,000㎡	0㎡		8,753㎡		107,753㎡				
合 計	154,781㎡	20,890㎡		29,228㎡		204,899㎡					

校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計				
		94,252㎡ (94,252㎡)	0㎡ (0㎡)	0㎡ (0㎡)	94,252㎡ (94,252㎡)				
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設		大学全体		
	81室	45室	100室	11室 (補助職員 - 人)	6室 (補助職員 - 人)				
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称			室 数		大学全体		
		大学全体			232 室				
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	大学全体での 共用分〔図書〕 ・大学図書館 462,487冊 ・教職課程 12,811冊	
	文学部 教育学科	4,750〔300〕 (750〔50〕)	21〔4〕 (21〔4〕)	3〔3〕 (3〔3〕)	20 (20)	8 (8)	0 (0)		
	計	4,750〔300〕 (750〔50〕)	21〔4〕 (21〔4〕)	3〔3〕 (3〔3〕)	20 (20)	8 (8)	0 (0)		
図書館		面積		閲覧座席数		収 納 可 能 冊 数		大学全体	
		14,367㎡		24		24,300			
体育館		面積		体育館以外のスポーツ施設の概要					
		2,110㎡		卓球場、柔剣道場、トレーニングセンター		1,915㎡			
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	経費の見積り	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次
		教員1人当り研究費等		400千円	400千円	400千円	400千円	-	-
		共同研究費等		200千円	400千円	590千円	780千円	-	-
		図書購入費	2,867千円	0千円	0千円	0千円	0千円	-	-
		設備購入費	67,261千円	3,918千円	5,010千円	0千円	0千円	-	-
	学生1人当り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
	1,300千円	1,100千円	1,100千円	1,100千円	-	-			
学生納付金以外の維持方法の概要			私立大学等経常費補助金、資産運用収入、雑収入等						
大 学 の 名 称		学 習 院 大 学							
既 設 大 学 等 の 状 況	学 部 等 の 名 称	修業 年限	入 学 定 員	編 入 学 定 員	収 容 定 員	学 位 又 は 称 号	定 員 超 過 率	開 設 年 度	所 在 地
	法学部	年	人	年次 人	人		倍		東京都豊島区目白 一丁目5番1号
	法学科	4	250	-	1,000	学士(法学)	1.04	S39年度	
	政治学科	4	230	-	920	学士(政治学)	1.08	S24年度	
	経済学部						1.10		
	経済学科	4	250	-	1,000	学士(経済学)	1.11	S27年度	
	経営学科	4	250	-	1,000	学士(経営学)	1.10	S49年度	
	文学部						1.10		
	哲学科	4	95	-	380	学士(哲学)	1.14	S24年度	
	史学科	4	85	-	340	学士(史学)	1.09	S36年度	
	日本語日本文学科	4	110	-	440	学士(日本語日本文学)	1.14	S32年度	
	英語英米文化学科	4	115	-	460	学士(英語英米文化学)	1.07	S32年度	
	ドイツ語圏文化学科	4	50	-	200	学士(ドイツ語圏文化学)	1.10	S32年度	
フランス語圏文化学科	4	80	-	320	学士(フランス語圏文化学)	1.10	S32年度		
心理学科	4	90	-	360	学士(心理学)	1.10	S50年度		

既設大学等の状況	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地
	理学部						1.13		
	物理学科	4	50	-	195	学士(理学)	1.14	S24年度	東京都豊島区目白一丁目5番1号
	化学科	4	50	-	195	学士(理学)	1.11	S24年度	
	数学科	4	60	-	240	学士(理学)	1.16	S38年度	
生命科学科	4	50	-	150	学士(理学)	1.15	H21年度		
既設大学等の状況	大学の名称	学習院女子大学							
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地
		年	人	年次人	人		倍		
	国際文化交流学部						1.19		東京都新宿区戸山三丁目20番1号
	日本文化学科	4	140	10(3年次)	590	学士(日本文化)	1.20	H10年度	
国際コミュニケーション学科	4	170	15(3年次)	715	学士(国際コミュニケーション)	1.17	H10年度		
英語コミュニケーション学科	4	45	-	135	学士(英語コミュニケーション)	1.26	H18年度		
附属施設の概要	<p>名称：人文科学研究所 目的：人文科学に関する共同研究を行うことにより学術の進歩発展に寄与する 所在地：東京都豊島区目白1-5-1 設置年月：平成13年4月 規模等：使用面積98㎡(事務室・研究室)</p> <p>名称：外国語教育研究センター 目的：外国語に関する教育・研究活動を総合的に行う 所在地：東京都豊島区目白1-5-1 設置年月：平成9年4月 規模等：使用面積400㎡(事務室・研究室・自習室)</p> <p>名称：計算機センター 目的：電子計算機及び電子通信機器による各種情報処理に関する教育及び研究活動を総合的に行う 所在地：東京都豊島区目白1-5-1 設置年月：平成10年4月 規模等：使用面積536㎡(事務室・研究室・実習室)</p> <p>名称：スポーツ・健康科学センター 目的：スポーツ科学及び健康科学の教育並びに体育・スポーツ活動及び健康教育に関する専門的業務を総合的に行う 所在地：東京都豊島区目白1-5-1 設置年月：平成13年4月 規模等：使用面積262㎡(事務室・研究室)</p>								

(注)

- 1 共同学科等の認可の申請及び届出の場合、「計画の区分」、「新設学部等の目的」、「新設学部等の概要」、「教育課程」及び「教員組織の概要」の「新設分」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 2 「教員組織の概要」の「既設分」については、共同学科等に係る数を除いたものとする。
- 3 私立の大学又は高等専門学校の場合、収容定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」及び「体育館」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 4 大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「校地等」、「校舎」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」、「体育館」及び「経費の見積もり及び維持方法の概要」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 5 「教育課程」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 6 空欄には、「-」又は「該当なし」と記入すること。

教育課程等の概要														
(文学部教育学科)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
学科専門科目 (教育基幹科目)	初等教育学	1後	2			○			1					
	基礎演習	1前	2						7					
	教育創造演習	3通	4				○		10	1	1			
	卒業論文	4通	12				○		10	1	1			
	世界の教育	1前		2			○		1					
	教育の歴史と現代	1前		2			○		1					
	子ども文化論	2前		2			○		1					
	学級経営論	2前		2			○		1					
	児童発達心理学	2前		2			○							兼1
	特別支援教育論	3前	2				○							兼1
	教育経営組織論	3前		2			○		1					
	教育情報管理論	3後		2			○							兼1
	学校アーカイブズ論	3前		2			○							兼1
	学校カウンセリング論	3後		2			○							兼1
小計(14科目)		—	22	18	0	—	—	11	1	1	0	0	兼5	
学科専門科目 (教育創造科目)	日本語教育論Ⅰ	1後	2			○								兼1
	環境教育論Ⅰ	1後		2			○		1					
	ボランティア学習論Ⅰ	1後		2			○		1					
	国際理解教育論Ⅰ	1後		2			○		1					
	日本語教育論Ⅱ	2前		2			○							兼1
	環境教育論Ⅱ	2前		2			○		1					
	ボランティア学習論Ⅱ	2前		2			○							兼1・集中
	国際理解教育論Ⅱ	2前		2			○		1					
	市民性教育論	3後		2			○		1					
	参画型学習論	3前		2			○							兼1・集中
	学校地域家庭連携論	3後		2			○				1			
	生涯学習論	3後		2			○							兼1・集中
	発信技法Ⅰ(言語表現)	1後		2				○		1				
	発信技法Ⅱ(身体表現)	1後		2				○		1				
	発信技法Ⅲ(情報)	1後		2				○						兼1
自然体験実習	1通	2						2					集中	
子どもと発達	2通		2				○		1				集中	
社会体験実習	3通	2						2					集中	
レクリエーション演習	3前		2				○		1					
小計(19科目)		—	6	32	0	—	—	6	0	1	0	0	兼3	
学科専門科目 (免許関連科目)	教職概論	1後	2			○			1					
	教育基礎	1前	2			○			1					
	教育心理学	1前	2			○								兼1
	教育制度	1後	2			○			1					
	初等教育課程論	1前	2			○			1					
	介護概論	2後		1			○							兼1・2クラス開講
	初等道徳教育指導法	3前		2			○		1					
	初等特別活動指導法	3後		2			○		1					
	初等教育方法・技術	3前		2			○		1					
	初等生徒指導	3前		2			○		1					
	教育相談	3後		2			○							兼1
	書道	3後		2				○						兼1
	国語科概説	2前		2			○		1					2クラス開講
	社会科概説	2前		2			○				1			2クラス開講
	算数科概説	2前		2			○		1					2クラス開講
理科概説	2前		2			○		1					2クラス開講	

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験 ・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
選択科目（総合基礎科目）	基礎 教養科目	ヨーロッパ世界	1・2・3・4通	4		○									兼2
	東アジア世界	1・2・3・4通	4		○										兼1
	神話学講義	2・3・4通	4		○										兼1
	歴史に見る日本	1・2・3・4通	4		○										兼2
	歴史に見る世界	1・2・3・4通	4		○										兼2
	宗教の現在	1・2・3・4通	4		○										兼7・オムニバス
	現代科学	1・2・3・4通	4		○										兼26・オムニバス
	数学	1・2・3・4通	4		○										兼1
	歴史の中の数学	1・2・3・4通	4		○										兼1
	現代社会と数学	1・2・3・4前	2		○										兼1
	社会の中の数学	1・2・3・4後	2		○										兼1
	時間・空間・物質の科学	1・2・3・4通	4		○										兼1
	環境・エネルギーの化学	1・2・3・4通	4		○										兼1
	生物学	1・2・3・4通	4		○										兼1
	心理学	1・2・3・4通	4		○										兼5・5クラス開講
	スポーツと健康を考える	1・2・3・4通	4		○										兼4・オムニバス
	スポーツ科学演習	1・2・3・4通	4				○		1						
	生命論	1・2・3・4通	4		○										兼2・2クラス開講
	エコロジー（環境問題と経済社会）	1・2・3・4後	4		○										兼5・オムニバス
	エコロジー・環境論1	1・2・3・4前	2		○										兼8・オムニバス
	エコロジー・環境論2	1・2・3・4後	2		○										兼6・オムニバス
	福祉	1・2・3・4通	4		○										兼12・オムニバス
	ポランティア論	1・2・3・4通	4		○				2						兼7・オムニバス
	情報処理と現代社会	1・2・3・4通	4		○										兼1
	ジェンダーと文化	1・2・3・4通	4		○										兼1
	記録保存と現代	1・2・3・4通	4		○										兼18・オムニバス
	記録管理と組織	1・2・3・4後	2		○										兼4・オムニバス
	生活と法	1・2・3・4前	2		○										兼1
	アジアを学ぶ	1・2・3・4前	4		○				3						兼20・オムニバス
	日本語表現法	1・2・3・4前後	2		○										兼3・6クラス開講
	キャリア・デザイン概論	1・2・3・4前後	2		○										兼2・6クラス開講
アカデミック・スキルズ（個別指導重視型）	1・2・3・4前	2		○										兼1	
アカデミック・スキルズ（講義型）	1・2・3・4前	2		○										兼1	
近代日本と学習院	1・2・3・4通	4		○										兼1	
小計（56科目）		—	0	202	0	—		4	0	0	0	0		兼190	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
必修科目 (総合基礎科目)	外国語科目Ⅰ 英語R(中級)	1・2通	2			○									兼2
	英語C(中級)	1・2通	2			○									兼3
	英語R(上級)	1・2通	2			○									兼3
	英語C(上級)	1・2通	2			○									兼3
	スポーツ・健康科学Ⅰ	1通	2				○		1						兼5
	小計(5科目)	—	10	0	0	—	—	1	0	0	0	0	0		兼10
選択科目 (総合基礎科目)	外国語科目Ⅱ 中国語B(初級)	1・2通	2			○									兼2
	中国語C(初級)	1・2通	2			○									兼2
	朝鮮語B(初級)	1・2通	2			○									兼2
	朝鮮語C(初級)	1・2通	2			○									兼2
	スポーツ・健康科学Ⅱ	1・2・3・4通	2				○								兼4
	情報科目 初等情報処理1	1・2・3・4前	2				○								兼2
	初等情報処理2	1・2・3・4	2				○								兼2
	小計(7科目)	—	0	10	0			0	0	0	0	0	0		兼8
	合計(155科目)	—	48	394	0			10	1	1	0	0	0		兼237
学位又は称号		学士(教育学)		学位又は学科の分野			教育学関係								
卒業要件及び履修方法							授業期間等								
必修科目として学科専門科目38単位、外国語科目8単位、スポーツ・健康科学科目2単位の計48単位、学科専門科目(必修以外の科目)から50単位以上を修得し、総計130単位以上を修得すること。 (履修科目の登録の上限:48単位(年間))							1学年の学期区分		2学期						
							1学期の授業期間		15週						
							1時限の授業時間		90分						

1 学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科の設置又は大学における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科(学位の種類及び分野の変更等に関する基準(平成十五年文部科学十九号)別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。)についても作成すること。

2 私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。

3 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。

4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。

授 業 科 目 の 概 要			
(文学部教育学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学科専門科目 教育基幹科目	初等教育学	1年次の学生に対して、教育学の基本的事項（学問的素養の基礎を含む）について理解させることをねらいとする授業科目である。講義形式で行う。現在及び過去の教育学を1年次に概観し学ぶことによって、教育を学ぶことについての動機付けとする。具体的な内容としては「教育とは何か」「教育学という学問」「教育学の歴史」「教育学における代表的な思想・学説」「教育学の研究分野と研究方法」「教育学と小学校教育」等について多角的に講ずる。	
	基礎演習	1年次の学生に対して、大学における学習・研究方法について理解させ、基礎・基本的な学習態度を養うことをねらいとする授業科目である。教員8名を三つのチームに分け各チームで4回分の内容を分担する。また、学生を3つの班に分け、ローテーションで展開する。残りの3回は全体でのガイダンスと発表とする。それぞれのチームの担当教員は以下のとおりである。 Aチーム 1 川口幸宏（※25年度のみ）、6 齋藤利彦、4 佐藤学 Bチーム 1 1 長沼豊、1 2 飯沼慶一、9 佐藤陽治 Cチーム 5 久保田福美、8 嶋田由美、2 三浦芳雄（※26年度から）	チームティーチング
	教育創造演習	3年次の学生に対して少人数ゼミ形式で研究指導を行い、4年次における卒業論文作成が円滑に実施できるよう力量形成を図ることをねらいとする授業科目である。学生の設定するテーマによる研究発表、共同での文献講読など多様な形式を取り入れ、4年次における卒業論文作成につなげる。前期は教員8名を三つのチームに分け各チームで4回分の内容を分担する。また、学生を3つの班に分け、ローテーションで展開する。残りの3回は全体でのガイダンスと発表とする。担当教員は以下のとおりである。（括弧内は後期のみ担当）後期は教員12名で、学生がABCのいずれかを選択し同じチームで15回の演習を行う。 Aチーム 6 齋藤利彦、4 佐藤学、（1 3 宮盛邦友、7 山崎準二） Bチーム 1 1 長沼豊、1 2 飯沼慶一、9 佐藤陽治、（3 諏訪哲郎） Cチーム 5 久保田福美、8 嶋田由美、2 三浦芳雄、（1 0 岩崎淳）	チームティーチング
	卒業論文	4年次において卒業論文を作成させ、学科で学習・研究したことの総仕上げとすることをねらいとする授業科目である。学生は各自の研究課題を設定し、課題・テーマに応じた担当教員の指導を受ける（したがって教育学科の全専任教員が担当する）。作成過程では課題設定の手法、資料収集の技法、論文作成の方法と留意点などについて学ぶ。担当教員ごと少人数での指導形態となる。作成・提出後には論文内容に関する口頭試問を複数の教員で行い評価を行う。 2 三浦義雄、3 諏訪哲郎、4 佐藤学、5 久保田福美、6 齋藤利彦、7 山崎準二、8 嶋田由美、9 佐藤陽治、1 0 岩崎淳、1 1 長沼豊、1 2 飯沼慶一、1 3 宮盛邦友、	チームティーチング

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学科専門科目 教育基幹科目	世界の教育	<p>諸外国の教育状況について理解し、そのことを通して日本の教育の特徴についての知見を得ることをねらいとする授業科目である。講義形式で行う。具体的には「米国の教育とその特徴」「ヨーロッパ諸国の教育とその特徴」「アジア諸国の教育とその特徴」を中心にしながら北米・南米大陸、アフリカ大陸、オセアニアの諸国の教育とその特徴についても扱う。また「比較教育学の視点から見た日本の教育の特徴」「世界の教育のこれから」等についても扱う。</p>	
	教育の歴史と現代	<p>教育の歴史について理解し、学校教育に関する見方の視野を広げることをねらいとする授業科目である。講義形式で行う。教育の過去を知ることで現代の教育状況とのつながりを理解し、それらを未来の教育を創る際の参考にすることは教育に携わる者の使命ともいえる。そこで小学校教員として必要な教育史、特に現代の教育につながる日本の明治期以降の教育史を中心に講ずる。具体的には「教育史とは何か」「明治期の日本の教育とその特徴」「学校制度の歴史」「教員の歴史」等について扱う。</p>	
	子ども文化論	<p>小学校児童を中心とした子どもの文化について理解することをねらいとする授業科目である。講義形式で行う。子どもの生活実態、社会の変化による文化や価値観の変容など、学校教育に影響を与える事象について理解することは小学校教員にとって重要である。そこで「子どもの生活実態とその変化」「社会の変容と子どもへの影響」「子ども文化とは何か」「子ども文化と小学校教育」「文化の担い手としての子どもとその可能性」等について講ずる。</p>	
	学級経営論	<p>小学校の学級担任として必要な学級経営の内容・方法について習得することをねらいとする授業科目である。小学校の教員は基本的には単一の学級で授業を担当することから、学級経営の力量がすべての事象に影響するといえる。そこで学級経営の基本的な事柄について理解させる。具体的には「小学校における学級経営の意義と重要性」「学級経営の基本的な事柄と留意点」「児童集団の形成とその方法」「特別活動と学級経営」「保護者との連携について」等について扱う。</p>	
	児童発達心理学	<p>小学校教員にとって基礎的な知見となる「児童の発達に応じた変容とその過程、発達段階に応じた指導のあり方」について発達心理学の視点から考察・理解することをねらいとする授業科目である。講義形式で行う。具体的には「発達心理学とは」「発達とは何か」「小学校における児童の発達の特徴と教員の役割について」「発達段階について」「発達の各段階における児童への指導のあり方」「児童の変容の捉え方」「発達障害とは何か、どう向き合うか」等について扱う。</p>	
	特別支援教育論	<p>小学校教員に必要な特別支援教育についての理解を深めることをねらいとする授業科目である。具体的には「特別支援教育の現状と多様性」「特別支援学校における教育の現状について」「小学校における統合教育とその重要性・あり方について」「普通級と支援級の交流とそのあり方について」「特別な支援が必要な児童の状況（ADHD・LD等を含む）」等について多角的に考察し、小学校教員としての力量形成に資するようにする。</p>	
	教育経営組織論	<p>学校経営についての基本的な考え方および学校組織のあり方について理解することをねらいとする授業科目である。学校は企業とは異なり非営利組織であり、その経営方法は独特なものがある。その特徴や特異性を理解し、小学校の組織の一員として適切な行動がとれるように指導する。その際重要となる管理職への報告・連絡・相談の重要性と意義、あり方について、同僚教員との適切なコミュニケーションについて、教員の社会的責任についてなども扱う。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教育基幹科目	教育情報管理論	学校教育で扱う情報管理の重要性とその方法についての理解を深め、小学校教員として適切に管理運用できるようにすることをねらいとする授業科目である。この科目で扱う情報としては、個人情報の管理と著作権の尊重の二点を中心とする。前者は児童に関する多様なデータを含め教員が扱うすべての個人情報の管理について、後者は主にプリント教材の作成に関わる留意事項等について（研究報告等執筆の際の引用のルールも含む）の内容である。管理職経験のある担当教員により現場の状況に即した講義が行われる。	
	学校アーカイブズ論	学校で教員が行う文書管理、文書保存についての適切なあり方について理解することをねらいとする授業科目である。学校ではさまざまな文書を取り扱っている。それらを効率的に保管・運用し、資料として有効に活用するための知見を学ぶ。具体的には「アーカイブズの基本的な考え方」「学校における文書保存の意義と重要性」「文書管理および保存の方法と技術」「周年行事等における保存文書の活用法」「アーカイブズにおける教員の役割と分担」等について扱う。	
	学校カウンセリング論	学校で行うカウンセリングの基本的な知識と技法、およびそのマインドについて理解することをねらいとする授業科目である。教育相談を含め、学校教育においてカウンセリング(マインド)が求められる機会が多い。そこで小学校教員として最低限必要な知見を提供する。具体的には「カウンセリングの基本的理解」「カウンセリングマインドとは」「学校で行うカウンセリングの場面と方法」「学校カウンセラーとの連携・協働の意義と重要性」等について扱う。	
学科専門科目	日本語教育論 I	日本語を母語としない児童に対する日本語教育の理論と実践についての理解を深めることをねらいとする授業科目である。近年外国から移住する人々の増加に伴い日本語がわからない児童が小学校に入学・編入する事例が増加していることから、日本語教育の理解は今後教員になる者には不可欠の知見と考えている。具体的には「小学校における日本語教育の重要性と社会的要請」「日本語教育の基本的な考え方」「小学校における日本語教育の具体的なあり方」等について実技・演習を交えて扱う。	
	環境教育論 I	小学校で行われる環境教育の基本的な考え方と指導法について理解させることをねらいとした授業科目である。演習形式を中心とし、学外での見学、体験、模擬授業等も交える。学生の興味関心のある課題について発表させ、それらを基に討論・協議し、環境教育に関する深い知見を得られるよう配慮する。具体的には「小学校における環境教育の課題とその克服」「環境教育の具体的な学習計画・授業法」等多角的に考察する。	
	ボランティア学習論 I	小学校で行われるボランティア学習の基本的な考え方と指導法について理解させることをねらいとした授業科目である。講義を中心とし、グループ討論等も交える。具体的な内容(授業計画)としては「ボランティアの理念および考え方」「学校教育におけるボランティア学習の意義と重要性」「教育課程への位置づけ」「教科指導におけるボランティア学習」「道徳におけるボランティア学習」「総合的な学習の時間におけるボランティア学習」「特別活動におけるボランティア学習」「ボランティア学習における学校と地域の連携・協働」などである。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学科専門科目 教育創造科目	国際理解教育論Ⅰ	小学校で行われる国際理解教育の基本的な考え方と指導法について理解させることをねらいとした授業科目である。講義を中心とし、グループ討論等も交える。具体的な内容（授業計画）としては「国際理解教育の理念および考え方」「学校教育における国際理解教育の意義と重要性」「教育課程への位置づけ」「教科指導における国際理解教育」「道徳における国際理解教育」「総合的な学習の時間における国際理解教育」「特別活動における国際理解教育」「国際理解教育における学校と地域の連携・協働」などである。	
	日本語教育論Ⅱ	「日本語教育論Ⅰ」履修者を対象に、さらに日本語教育についての理解を深め、小学校教員として役立てることをねらいとする授業科目である。演習形式を中心とし、学外での見学、体験、模擬授業等も交える。学生の興味関心のある課題について発表させ、それらを基に討論・協議し、日本語教育に関する深い知見を得られるよう配慮する。具体的には「小学校における日本語教育の課題とその克服」「日本語教育の具体的な方法」等多角的に考察する。	
	環境教育論Ⅱ	「環境教育論Ⅰ」履修者を対象に、さらに環境教育についての理解を深め、小学校教員として役立てることをねらいとする授業科目である。講義を中心とし、グループ討論等も交える。具体的な内容（授業計画）としては「環境教育の理念および考え方」「学校教育における環境教育の意義と重要性」「人間の発展と環境問題」「世界が抱える環境問題」「環境教育の進め方とその理論的背景」「環境倫理の使命と役割」「環境教育の具体的な方法」「環境教育における学校と地域の連携」などである。	
	ボランティア学習論Ⅱ	「ボランティア学習論Ⅰ」履修者を対象に、さらにボランティア学習についての理解を深め、小学校教員として役立てることをねらいとする授業科目である。演習形式を中心とし、学外での見学、体験、模擬授業等も交える。学生の興味関心のある課題について発表させ、それらを基に討論・協議し、ボランティア学習に関する深い知見を得られるよう配慮する。具体的には「小学校におけるボランティア学習の課題とその克服」「ボランティア学習の具体的な学習計画・授業法」等多角的に考察する。	集中
	国際理解教育論Ⅱ	「国際理解教育論Ⅰ」履修者を対象に、さらに国際理解教育についての理解を深め、小学校教員として役立てることをねらいとする授業科目である。演習形式を中心とし、学外での見学、体験、模擬授業等も交える。学生の興味関心のある課題について発表させ、それらを基に討論・協議し、国際理解教育に関する深い知見を得られるよう配慮する。具体的には「小学校における国際理解教育の課題とその克服」「国際理解教育の具体的な学習計画・授業法」等多角的に考察する。	
	市民性教育論	市民性教育についての基本的な考え方を理解し、日本における位置づけや可能性について考察することをねらいとする授業科目である。英国のCitizenship教育（2002年から中等教育段階の必修教科となった）の理念と具体的な内容・方法を概観し、日本における実現可能性について考察する。特に地域との連携によるボランティア学習など社会体験で育む市民性、社会参加・参画の方法を軸にあり方を考察するとともに、日本における先進的な取り組みについても講ずる。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学科専門科目 教育創造科目	参画型学習論	小学校教育において欠かすことのできない参加・参画型の学習の理論と実践について理解させることをねらいとする授業科目である。講義を中心とし、模擬的な演習も交えて理解を深める。具体的な内容としては「小学校教育における参画型学習の意義と具体的な場面」「参加・参画型学習の理論と小学校教育への応用」「教科学習における参加・参画」「特別活動等における参加・参画」「参画型学習の具体的な手法と指導法」などである。	集中
	学校地域家庭連携論	近年の学校教育において重要となっている地域および家庭との連携についての理解を深め、小学校教員として役立つ知見を得ることをねらいとする授業科目である。多様な取り組み例の分析を含め、連携の意義や重要性、具体的な方策、教員の留意点について多角的に考察する。また、保護者との協力関係については、保護者会の有効な進め方、PTA活動のあり方と課題、さまざまなクレームに対する対処法などについても検討し、教員としてすぐに役立つ知見も提供する。	
	生涯学習論	生涯学習の基本的な考え方について理解し、その基盤となる初等教育の重要性と意義について考察することをねらいとする授業科目である。人が生涯にわたって学ぶことの意義やそのための教育機関の多様性について、発達段階に応じた学習機会の提供の重要性について、学校教育と社会教育との連携・協働の意義と重要性、その具体的な手法等についての理解も深める。実践的な話題として教育委員会の実施する事業や市民によるボランティア活動などについても扱う。	集中
	発信技法Ⅰ（言語表現）	小学校教員にとって重要な言語表現による発信技法について習得することをねらいとする授業科目である。演習形式で体験的に行う。特に書きことばによる表現法について習熟するよう指導する。このことは小学校教員としての能力のみならず、レポートや論文の作成にも有効である。具体的には「ことばと表現の基本」「書きことばの技法とルール」「何をどのように表現するか」「情報収集とレポート・論文作成」「プレゼンテーションにおける言語表現」等について扱う。	
	発信技法Ⅱ（身体表現）	小学校教員にとって重要な身体表現による発信技法について習得することをねらいとする授業科目である。演習形式で体験的に行う。小学校では音楽や体育等の教科指導に限らず、さまざまな場面で教員が身体で表現し児童に伝える機会が多い。そこでリズム・音楽にあわせて体を動かすこと等を通して、からだ全体を使って表現することの有効性を理解し、すすんで用いることができるよう力量形成を図る。具体的には「小学校における身体表現の諸場面」「身体表現の意義と重要性」などについて扱う。	
	発信技法Ⅲ（情報）	小学校教員の行うさまざまな情報発信に焦点を当て、それらの有効な発信の技法について習得することをねらいとする授業科目である。演習形式で体験的に行う。具体的には「教員としての情報発信の内容と方法」「学級経営における情報発信」「児童への効果的な情報伝達について」「保護者への情報発信のあり方」「管理職への報告・連絡・相談のあり方」等について扱う。板書の技法も指導する。現場での経験（管理職含む）が豊富な教員が担当し、実践的に学ぶ。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学科専門科目	自然体験実習	近年小学校教育で重視されている体験活動のうち自然体験についての理解を深めるため、学生自身に自然体験をさせ、教員としての資質・能力向上にも資することをねらいとする授業科目である。1 2 飯沼慶一と 8 嶋田由美が共同して30時間の自然体験（学内および学外での体験）と事前学習、事後学習で構成する。事後学習では、小学校教育における自然体験の可能性についても主体的に考察させる。体験場所としては学内の森および学外の田畑・森林（山梨県内）を活用する。	集中・チームティーチング
	子どもと発達	小学校教員として不可欠な子どもの発達についての知見を幼児教育の視点から考察することをねらいとする授業科目である。具体的には幼稚園または保育所での体験的な学びを中核とし、その体験を基に討論し、文献講読等を行う演習科目である。また、幼児期における家庭や地域の役割についても考察する。あわせて、幼児教育から初等教育への効果的な接続についても考察・研究し、小学校教員としてすぐに役立つための知見をも得る。	集中
	社会体験実習	近年小学校教育で重視されている体験活動のうち社会体験についての理解を深めるため、学生自身に社会体験をさせ、教員としての資質・能力向上にも資することをねらいとする授業科目である。1 1 長沼豊と 8 嶋田由美が共同して30時間程度の社会体験（地域でのボランティア体験等）と事前学習、事後学習で構成する。事後学習では、小学校教育における社会体験の可能性についても主体的に考察させる。体験場所は教育関係にとどまらず、あらゆる分野を想定し、学生が主体的に選択できるよう指導する。	集中・チームティーチング
	レクリエーション演習	小学校教育において実施するさまざまなレクリエーションについて考察・研究し、その有効性を理解し効果的に指導できることをねらいとする授業科目である。学級活動をはじめとする特別活動や総合的な学習の時間等で行われる仲間づくりのためのゲームや各種のアクティビティ、クラスの歌づくり、などのレクリエーション活動についての基本的な理解を深め、その指導の技法についても体験的に考察する。ゲームの指導法等についてもレクリエーション有資格者の担当教員から学ぶ。	
免許関連科目	教職概論	教育職員免許法に定められた小学校教諭普通免許状授与のための「教職に関する科目」群のうち「教職の意義等に関する科目」に該当するものである。教職の意義及び教員の役割、教員の職務内容（研修、サービス及び身分保障等を含む）について理解させ、進路選択に資する各種の機会の提供等を行うことをねらいとする授業科目である。講義形式を中心とする。「学校教育と教職の意義」「教員の職務内容」「教員採用試験の動向」等について扱う。	
	教育基礎	教育職員免許法に定められた小学校教諭普通免許状授与のための「教職に関する科目」群のうち「教育の基礎理論に関する科目」に該当するものである。教育に関する基礎的な理解を促すことをねらいとする授業科目である。講義形式を中心とする。具体的には「教育とは何か」「教育と人間の発達」「教育の本質と学校」「学校における教育課程と教育内容」「今日の教育を取り巻く様々な問題と教員の役割」等について扱う。それらを通して履修者に以後の教育学科および初等教職課程の学習への動機づけとする。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学科専門科目 免許関連科目	教育心理学	教育職員免許法に定められた小学校教諭普通免許状授与のための「教職に関する科目」群のうち「教育の基礎理論に関する科目」に該当するものである。教育に役立つ心理学的知見を、なるべく多くの研究例や教育現場への応用例を交えて紹介する。教育という営みを通して、人間の心の働きおよび発達と学習の関係について理解することをねらいとする授業科目である。講義形式を中心とする。具体的には「教育心理学とは」「発達の理論」「発達と学習の関係」「種々の学習理論」「動機づけの理論」「教員の役割」「集団とリーダーシップに関する理論」「発達と個人差」等について扱う。	
	教育制度	教育職員免許法に定められた小学校教諭普通免許状授与のための「教職に関する科目」群のうち「教育の基礎理論に関する科目」に該当するものである。今日の教育状況を理解するにあたって、制度的アプローチはきわめて重要である。本科目は、日本の教育の特質を、制度を規定する各種法規と歴史の検討を通して考察していくことをねらいとする授業科目である。講義形式を中心とする。具体的には「戦前の教育制度の特質」「試験制度からみた戦前の学校体系」「憲法の教育条項と権利としての教育」「教育基本法と教育制度」「学校の設置・運営と教育制度」「児童・生徒をめぐる教育制度」等について扱う。	
	初等教育課程論	教育職員免許法に定められた小学校教諭普通免許状授与のための「教職に関する科目」群のうち「教育課程及び指導法に関する科目」に該当するものである。小学校における教育課程の意義および編成の方法について理解することをねらいとする授業科目である。講義形式で行う。「教育課程とその意義」「小学校における教育課程編成と学習指導要領」「教育課程の理論」「各教科の教育課程編成」「道徳の教育課程編成」「総合的な学習の時間の教育課程編成」「外国語活動の教育課程編成」「特別活動の教育課程編成」等について扱う。	
	介護概論	教育職員免許法に定められた小学校教諭普通免許状授与のための「教科又は教職に関する科目」に該当するものである。また「小学校及び中学校の教諭の普通免許状授与に係る教育職員免許法の特例等に関する法律」に定められた通称「介護等体験」の準備学習として位置づける授業科目であり、介護等体験を行う前年度に基礎的な知識を得ることをねらいとする授業科目である。具体的には「社会福祉施設についての概説」「特別支援学校についての概説」「介護等体験の内容と方法および留意点」等について扱う。	
	初等道徳教育指導法	教育職員免許法に定められた小学校教諭普通免許状授与のための「教職に関する科目」群のうち「教育課程及び指導法に関する科目」に該当するものである。小学校の道徳教育のあり方および指導法について理解することをねらいとする授業科目である。班討議、発表、模擬授業など演習形式を中心とする。具体的には「小学校における道徳教育のねらいと内容」「道徳の時間において扱う内容項目」「道徳の時間における指導のあり方」「教材の構成と工夫」「体験活動の活用」「地域との連携の意義と手法」等について扱う。	
	初等特別活動指導法	教育職員免許法に定められた小学校教諭普通免許状授与のための「教職に関する科目」群のうち「教育課程及び指導法に関する科目」に該当するものである。小学校の特別活動のあり方および指導法について理解することをねらいとする授業科目である。特別活動の意義、4つの内容項目について、およびそれぞれの指導法について等を扱う。班討議、発表など特別活動的な要素を盛り込んだ演習形式を中心とする。模擬的に学ぶことができるよう、教員役・生徒役に分かれての模擬遠足実習も学外で行う。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学科専門科目	初等教育方法・技術	教育職員免許法に定められた小学校教諭普通免許状授与のための「教職に関する科目」群のうち「教育課程及び指導法に関する科目」に該当するものである。小学校における教育方法について理解し、その技術・技法について習熟することをねらいとする授業科目である。模擬授業、班討議、発表など演習形式を中心とする。「小学校における教育方法と技術」「教材の作成とその活用法」「授業実践とその工夫」「レクリエーションを用いた方法」「情報機器を活用した資料収集および発表」等について扱う。	
	初等生徒指導	教育職員免許法に定められた小学校教諭普通免許状授与のための「教職に関する科目」群のうち「生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目」に該当するものである。小学校における生徒指導および進路指導に関する理論およびそれらの方法について理解することをねらいとする授業科目である。講義形式を中心とするが、班討議、ロールプレイなどの形式も取り入れる。具体的には「生徒指導とは」「小学校における生徒指導の内容と方法」「進路指導とは」「小学校における進路指導の内容と方法」「キャリア教育と生徒指導、進路指導」等について扱う。	
	教育相談	教育職員免許法に定められた小学校教諭普通免許状授与のための「教職に関する科目」群のうち「生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目」に該当するものである。教育相談に関する基本的な理論および方法について理解させ、教員として役立てることをねらいとする授業科目である。カウンセリングに関する基礎的な知識を含めた内容である。講義形式を中心とするが、班討議やロールプレイなどの形式も取り入れる。具体的には「教育相談の意義と方法」「カウンセリングが求められる機会とその手法」「教育相談における教員の役割とカウンセリングマインド」「学校カウンセラーとの協働の方法」等について扱う。	
	書道	教育職員免許法に定められた小学校教諭普通免許状授与のための「教科に関する科目」に該当するものである。教科・国語の内容に含まれる書写に対応した科目であり、実技形式を中心に行う。学生が小学校の国語科の書写（硬筆、毛筆の両方）を指導できるよう自身の力量形成を図ることをねらいとする授業科目である。具体的には書道の実技を体験的に学びながら書道の基本と小学校教育、書道の歴史等についての知見をも得ることを目指す。なお、授業科目の名称を「書写」ではなく「書道」とした理由は、我が国の伝統的な言語文化である書道に対する実践的理論的理解を深めることは、「書写」指導力量の養成を図るほかに、とりわけ「伝統的な言語文化と国語の特質」に対する関心を深めさせることに有意義であるためである。	
	国語科概説	教育職員免許法に定められた小学校教諭普通免許状授与のための「教科に関する科目」に該当するものである。文化としての国語について探求し、小学校教育に役立てることをねらいとする授業科目である。「国語に対する関心を深め国語を尊重する態度を育てる」国語科を担当するため、履修者自らが国語を適切に表現し正確に理解する能力が必要となる。そこで多様な文献を読み解くことを通して言語感覚を養い、要旨を伝え合うことで言語表現力を高めるよう指導する。	
	社会科概説	教育職員免許法に定められた小学校教諭普通免許状授与のための「教科に関する科目」に該当するものである。公民的資質を養うための知見について考察し、小学校教育に役立てることをねらいとする授業科目である。日本および世界の国々の社会生活について地理・歴史・公民の3分野の視点から概観し、グローバル化した社会のあり方を考察する。さらにローカルな社会の課題への見方・考え方について探求し、多様な見方・考え方、思考力・判断力・表現力等を養う。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学科専門科目 免許関連科目	算数科概説	教育職員免許法に定められた小学校教諭普通免許状授与のための「教科に関する科目」に該当するものである。数学的な見方・考え方について考察し、小学校教育に役立てることをねらいとする授業科目である。数と量、関数、図形、離散数学の各分野の初歩的な数学理論について概観し、帰納・演繹・類推の数学的見方や考え方について理解するとともに、それらが小学校算数科でどのように構成されているのかについて探求する。また、数学的思考力・判断力・表現力についても習熟を図る。	
	理科概説	教育職員免許法に定められた小学校教諭普通免許状授与のための「教科に関する科目」に該当するものである。科学的な思考、見方・考え方、表現力について探求し、小学校教育に役立てることをねらいとする授業科目である。物理・化学・生物・地学の4分野の基本的な理論について考察し、それらを自然と人間との関係性の視点から捉え直す。観察・実験・見学等実践的な考察を行い、課題探求型のテーマを設定することで、問題解決能力、思考力等についても養う。	
	生活科概説	教育職員免許法に定められた小学校教諭普通免許状授与のための「教科に関する科目」に該当するものである。人間と生活について探究し、小学校教育に役立てることをねらいとする授業科目である。学習指導要領「生活科」の目標に示されたことを達成するために、まず履修者自身が自己の生活や周囲の環境を見直すことから始める。自分と身近な人々、社会、自然とのかかわりについて再認識し、その上で小学校の教育実践のあり方を探求する。	
	音楽科概説	教育職員免許法に定められた小学校教諭普通免許状授与のための「教科に関する科目」に該当するものである。音楽科における表現及び鑑賞の活動について理解し、小学校教育に役立てることをねらいとする授業科目である。音楽史概観、ピアノ実技、記譜法、リズム・音階・音程、和音とその活用、各種楽器とその特徴、発声法、歌唱の技法など基礎・基本的な知識・技能について習熟させ、あわせて音楽を楽しむことの意義を体感させる。	
	図画工作科概説	教育職員免許法に定められた小学校教諭普通免許状授与のための「教科に関する科目」に該当するものである。造形的な創造活動等の基礎的な能力を培い、小学校教育に役立てることをねらいとする授業科目である。具体的な制作活動を通して、ものづくりの意義を知るとともに、感性を育む。その過程で素材の生かし方や用具・道具の重要性についての理解を深める。各種の鑑賞と表現活動を通して表現力、創造性、自発性を養い、教員としての力量形成に資するようにする。	
	家庭科概説	教育職員免許法に定められた小学校教諭普通免許状授与のための「教科に関する科目」に該当するものである。衣食住など家族・家庭生活に関する多様な事象について多角的に考察し、小学校教育に役立てることをねらいとする授業科目である。身近な生活の諸問題を多様な観点から考察することを通して、学習指導要領「家庭科」の目標に示された「家族の一員として生活をよりよくしようとする実践的な態度」を履修者が養えるよう指導する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学科専門科目	体育科概説	教育職員免許法に定められた小学校教諭普通免許状授与のための「教科に関する科目」に該当するものである。運動と健康・安全についての基本的事項についての理解を深め、小学校教育に役立てることをねらいとする授業科目である。スポーツと健康について理論的および体験的に学び、その意義を理解するとともに、運動による成長・発達や生涯にわたる健康の保持増進などについても考察する。ボール運動等の指導のあり方についても理解を深める。	
	初等英語活動概説	教育職員免許法に定められた小学校教諭普通免許状授与のための「教科又は教職に関する科目」に該当するものである。平成23年度より小学校で必修化された外国語活動に対応し、英語を教えることを想定して、その学習内容について理解することをねらいとした授業科目である。講義形式を中心とするが、英語の力量形成も行うため、実践形式も取り入れる。具体的な内容は「小学校外国語活動の趣旨（学習指導要領の理解）」「小学校における英語活動の意義とねらい」「英語表現についての習熟」等である。	集中
	初等国語科教育法	教育職員免許法に定められた小学校教諭普通免許状授与のための「教職に関する科目」群のうち「教育課程及び指導法に関する科目」に該当するものである。小学校国語科教育の基本的理論について考察し、国語科の授業を行う上で必要な知識・技能を習得することをねらいとする授業科目である。演習形式を中心とする。具体的には「国語科教育の特質と学習指導要領」「国語科の目標と内容」「国語科の授業計画」「国語科の指導方法・教材研究」「国語科の学習指導案作成と模擬授業」「国語科における評価とその方法」等について扱う。	
	初等社会科教育法	教育職員免許法に定められた小学校教諭普通免許状授与のための「教職に関する科目」群のうち「教育課程及び指導法に関する科目」に該当するものである。小学校社会科教育の基本的理論について考察し、社会科の授業を行う上で必要な知識・技能を習得することをねらいとする授業科目である。演習形式を中心とする。具体的には「社会科教育の特質と学習指導要領」「社会科の目標と内容」「社会科の授業計画」「社会科の指導方法・教材研究」「社会科の学習指導案作成と模擬授業」「社会科における評価とその方法」等について扱う。	
	初等算数科教育法	教育職員免許法に定められた小学校教諭普通免許状授与のための「教職に関する科目」群のうち「教育課程及び指導法に関する科目」に該当するものである。小学校算数科教育の基本的理論について考察し、算数科の授業を行う上で必要な知識・技能を習得することをねらいとする授業科目である。演習形式を中心とする。具体的には「算数科教育の特質と学習指導要領」「算数科の目標と内容」「算数科の授業計画」「算数科の指導方法・教材研究」「算数科の学習指導案作成と模擬授業」「算数科における評価とその方法」等について扱う。	
	初等理科教育法	教育職員免許法に定められた小学校教諭普通免許状授与のための「教職に関する科目」群のうち「教育課程及び指導法に関する科目」に該当するものである。小学校理科科教育の基本的理論について考察し、理科科の授業を行う上で必要な知識・技能を習得することをねらいとする授業科目である。演習形式を中心とする。具体的には「理科科教育の特質と学習指導要領」「理科科の目標と内容」「理科科の授業計画」「理科科の指導方法・教材研究」「理科科の学習指導案作成と模擬授業」「理科科における評価とその方法」等について扱う。	

免許関連科目

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学科専門科目	初等生活科教育法	教育職員免許法に定められた小学校教諭普通免許状授与のための「教職に関する科目」群のうち「教育課程及び指導法に関する科目」に該当するものである。小学校生活科教育の基本的理論について考察し、生活科の授業を行う上で必要な知識・技能を習得することをねらいとする授業科目である。演習形式を中心とする。具体的には「生活科教育の特質と学習指導要領」「生活科の目標と内容」「生活科の授業計画」「生活科の指導方法・教材研究」「生活科の学習指導案作成と模擬授業」「生活科における評価とその方法」等について扱う。	
	初等音楽科教育法	教育職員免許法に定められた小学校教諭普通免許状授与のための「教職に関する科目」群のうち「教育課程及び指導法に関する科目」に該当するものである。小学校音楽科教育の基本的理論について考察し、音楽科の授業を行う上で必要な知識・技能を習得することをねらいとする授業科目である。演習形式を中心とする。具体的には「音楽科教育の特質と学習指導要領」「音楽科の目標と内容」「音楽科の授業計画」「音楽科の指導方法・教材研究」「音楽科の学習指導案作成と模擬授業」「音楽科における評価とその方法」等について扱う。	
	初等図画工作科教育法	教育職員免許法に定められた小学校教諭普通免許状授与のための「教職に関する科目」群のうち「教育課程及び指導法に関する科目」に該当するものである。小学校図画工作科教育の基本的理論について考察し、図画工作科の授業を行う上で必要な知識・技能を習得することをねらいとする授業科目である。演習形式を中心とする。具体的には「図画工作科教育の特質と学習指導要領」「図画工作科の目標と内容」「図画工作科の授業計画」「図画工作科の指導方法・教材研究」「図画工作科の学習指導案作成と模擬授業」「図画工作科における評価とその方法」等について扱う。	
	初等家庭科教育法	教育職員免許法に定められた小学校教諭普通免許状授与のための「教職に関する科目」群のうち「教育課程及び指導法に関する科目」に該当するものである。小学校家庭科教育の基本的理論について考察し、家庭科の授業を行う上で必要な知識・技能を習得することをねらいとする授業科目である。演習形式を中心とする。具体的には「家庭科教育の特質と学習指導要領」「家庭科の目標と内容」「家庭科の授業計画」「家庭科の指導方法・教材研究」「家庭科の学習指導案作成と模擬授業」「家庭科における評価とその方法」等について扱う。	
	初等体育科教育法	教育職員免許法に定められた小学校教諭普通免許状授与のための「教職に関する科目」群のうち「教育課程及び指導法に関する科目」に該当するものである。小学校体育科教育の基本的理論について考察し、体育科の授業を行う上で必要な知識・技能を習得することをねらいとする授業科目である。演習形式を中心とする。具体的には「体育科教育の特質と学習指導要領」「体育科の目標と内容」「体育科の授業計画」「体育科の指導方法・教材研究」「体育科の学習指導案作成と模擬授業」「体育科における評価とその方法」等について扱う。	
	初等英語活動指導法	教育職員免許法に定められた小学校教諭普通免許状授与のための「教科又は教職に関する科目」に該当するものである。平成23年度より小学校で必修化された外国語活動に対応し、英語を教えることを想定して、その指導法について習熟することをねらいとした授業科目である。模擬授業など実践的な手法を活用して小学校教員として役立つ力量形成をめざす。具体的には「小学校外国語活動の趣旨」「小学校における英語活動のさまざまな指導法」「学習指導案の作成法」等について扱う。	集中

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
学科専門科目	免許関連科目	初等教育実習Ⅰ	教育職員免許法に定められた小学校教諭普通免許状授与のための「教職に関する科目」群のうち「教育実習」に該当するものである。実習校における教育実習のための事前指導を中心とする。専任教員全員で担当する。「教育実習Ⅱ」「教育実習Ⅲ」（実習校実習）を履修するためには本科目の単位取得が条件となる。前期に第一回講義（2コマ）、夏期集中講義期間に第二回講義（6コマ）を行い、後期には事後の個別指導を行う。「教育実習の心構え」「学校論および指導論」「表現技法」等について扱う。	集中
		教職実践演習（小）	教育職員免許法に定められた小学校教諭普通免許状授与のための「教職に関する科目」群のうち「教職実践演習」に該当するものである。 6 齋藤利彦と8 嶋田由美がそれぞれ前半7回、後半7回を分担しオムニバス形式で行う。4年次後期の学生を対象に、当該履修学生の教科に関する科目および教職に関する科目の履修状況（履修カルテ）をふまえ、教員として必要な知識技能を修得したことを確認し、よりよい教員になるよう指導することをねらいとする。模擬授業、班討議、教育実習の成果発表等多様な方法により知識技能を確認する。現職教員をゲストに招き、教育実践の課題に応じた具体的な討議を進めていく。	オムニバス
		初等教育実習Ⅱ	教育職員免許法に定められた小学校教諭普通免許状授与のための「教職に関する科目」群のうち「教育実習」に該当するものである。4年次に実習校で行う教育実習のうちの2単位分である。小学校で行うことを原則とする。履修学生は、各実習校において「教科指導の実際」「道徳教育とその指導」「特別活動のあり方と指導の実際」「総合的な学習の時間の指導」「外国語活動の指導とその工夫」「校務分掌の実際」「学校、地域、家庭との連携」「学校運営の実際」などについて体験的に学ぶ。	集中
		初等教育実習Ⅲ	教育職員免許法に定められた小学校教諭普通免許状授与のための「教職に関する科目」群のうち「教育実習」に該当するものである。上記「初等教育実習Ⅱ」と同様の内容で残りの2単位分である。通常は「初等教育実習Ⅱ」と同時に履修する。履修学生は、各実習校において「教科指導の実際」「道徳教育とその指導」「特別活動のあり方と指導の実際」「総合的な学習の時間の指導」「外国語活動の指導とその工夫」「校務分掌の実際」「学校、地域、家庭との連携」「学校運営の実際」などについて体験的に学ぶ。	集中
選択科目（文学部各学科共通科目）	文学部各学科共通科目	言語学概論	言語研究の歴史を辿りつつ、言語学の基本概念、関連諸分野における研究の目的と方法、研究の現状と今後の課題などについて学ぶ。具体的には言語と言語学、言語学の諸分野、言語の歴史と系統、比較言語学、形式と意味、音声言語と文字言語、音声学と音韻論、形態論と統語論、アジアの諸言語、日本語の系統、ソシユールと現代言語学、言語と文化、構造主義と言語研究、言語と社会、言語の普遍性と個別性、生成文法理論の誕生、生成文法理論の展開、認知言語学、認知言語学と生成文法、言語学と日本語学、言語の起源などについて扱う。	
		聖書研究	新約聖書に収められている福音書の1つである『マルコによる福音書』と『ヨハネの黙示録』を、それぞれ英語訳テキスト（またはギリシア語原文）を使用して講読する。 本授業では、欧米の文化、思想、哲学、芸術、文学、さらには政治や科学技術に至るまで、さまざまな領域で極めて大きな影響力を持ち続けているキリスト教を人間の思想の1つとして捉えた上で、新約聖書のテキストに何が書かれているのか、理解することを目指す。具体的には、イエスの行動と死が福音書記者によってどのように描かれたのか、また、誕生したばかりの原始キリスト教がどのように広まっていったか、などを中心に、新約聖書のテキストを精読することを通じて、キリスト教に対する理解を深めることを目的とする。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
選択科目（文学部各学科共通科目）	古典ギリシア語（初級） 古典ギリシア語初級の習得	本授業では古典ギリシア語の基礎文法の習得を目指す、1年間の学習を通して、最終的には古典ギリシア語で書かれた簡単なテキストを読解することが出来る程度にまで力を高めることを求めている。古代のテキストを読むことは現代を生きる私たちの思索にも何らかの刺激を与えるはずである。	
	上級古典語（ギリシア語） 古典ギリシア語講読	初級ギリシア語文法の履修を終えている学生を対象に、古典ギリシア語の講読を行う。テキストの講読が中心である。アリストテレス『ニコマコス倫理学』第二巻を読む。ここでは、徳についての概説が述べられている。文法事項を確認しながら、出席者たちにテキストを訳してってもらう。	
	古典ラテン語（初級）	ラテン語はイタリア語やフランス語などロマンス諸語の祖語であるだけではなく、語派の違う英語やドイツ語にも語彙などの面で大きな影響を与えてきた。また、ヨーロッパの文学や思想の大半は近世に至るまでラテン語で表現されてきた。したがって、ラテン語はヨーロッパの文化を理解するための最も重要なツールの一つであると言うことができる。この授業では、古典ラテン語をはじめて学ぶ人を対象に、その最も基本的な文法事項について説明する。	
	上級古典語（ラテン語）	古典ラテン語の初級文法を何らかのかたちで修得された学生を対象にラテン語で書かれた作品をテキストとして講読する。アウグスティヌスは「西欧の教師」ともよばれ、古代世界最後の教養人とされるラテン教父。『告白』はアウグスティヌス自身がもっとも読まれている著作だといっている作品であり、これをテキストとして読みすすめる。ラテン語に、ヨーロッパ文化に、古代世界に、アウグスティヌスにとりいろいろな関心をもって参加されること期待する。	
	ギリシア・ラテン文学特殊研究	西洋文化の源流を理解するために、ギリシア、ローマ文学を読み解いてゆく。特に神話と悲劇の解説に重点を置く。ホメロスの「オデュッセイア」、ホメロスの「イリアス」、ヘシオドス「神統記」、ギリシア悲劇とは何か、アイスキュロスの悲劇、ソフォクレスの悲劇、エウリピデスの悲劇、ウェルギリウス「アエネーイス」等を扱う。	
	漢語原書講読	日本には昔から優れた漢文の訓読方法がある。この方法は漢文史料の解読において大いに裨益する。しかし古代中国語である漢文は、やはり現代中国語とは異なる。従って、中国研究を行う際、歴史・文化・文学などの分野を扱うにしても、現在の中国側の研究動向や研究史を無視してはならない。また、国境を超えた学術交流が日増しに高まってきている今日では、中国語で論文を書いたり、学会で発表したりする機会も多い。そのため、本講義では、中国語圏の現代語で書かれた論文・学術書を正確に解読することを目指す。同時に現代中国語で表記された歴史学の名著の講読や翻訳を訓練する。漢文・現代語ともに重んじ、解読力と翻訳力を養成するプロセスで、その名著の内容・研究方法を吟味する。受講者の積極的な参加を期待する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
選択科目（文学部各学科共通科目） 文学部各学科共通科目	現代学入門	<p>文学部共通科目「現代学入門」は、私たちの生きる「今」を、異なった複数の視点からアプローチする新たな試みである。既成の学科の枠にこだわらず、言語・地域・時代を横断し縦断するような学際的な視点から「現代」を照射し考察するオムニバス形式の授業である。</p> <p>つまり、それは決して現代についてのみ語る、考えるという作業ではない。テーマに沿った様々な視点から、学生諸君には、学生諸君の「現代」を考えて頂きたい、その視点を得るための授業である。</p> <p>(オムニバス形式) (31小島和男/8回)「ガイダンス」「『家族』という言葉とその価値」「パネルディスカッション」「まとめ」 (38金田智子/1回)「在日外国人における『家族』の諸問題」 (39狩野智洋/1回)「中世ヨーロッパの結婚・家族—現代との比較」 (11長沼豊/2回)「親子ではじめるボランティア」「モンスターペアレントとは」 (47伊藤忠弘/1回)「家族とモチベーション」 (45千葉功/2回)「華族の家族」 (42佐野みどり/1回)「家族の肖像」 (40神田龍身/1回)「家の論理と血の論理」 (48大野麻奈子/1回)「フランス現代文学における家族—マリー・ンディアイの『パパは食べなければならない』を中心に」 (51田辺千景/1回)「アメリカの家庭小説にみる『理想』のアメリカ国家」 (49小林和貴子/3回)「ドイツの家族事情」 (44高柳信夫/1回)「近代中国小説にみる中国の大家族制」 (43高木利彦/1回)「大家族から小家族へ—江戸時代の農民」 (37大貫敦子/2回)「『親密圏』から考える家族の変容」 (50鈴木雅生/2回)「カミュ『異邦人』の母と子」 (1川口幸宏/1回)「いじめられている子供が家族の中でどのような姿をみせているか？」 (52吉川真理/2回)「家族の神話—臨床心理学視座より考察」「家族の物語—臨床心理学的視座より読む」 (46夏目房之介/2回)「家族とマンガ」 (41酒井潔/2回)「『家族』とは別のしかたで」</p>	オムニバス形式
	現代マンガ学講義	<p>「マンガとは何か」と繰り返し問い、様々な観点からその問いを掘り下げる。我々が漠然と感じているマンガ像を成り立たせる現代的な現象を自覚してほしい。マンガの世界化現象の紹介と比較、マンガ言説史、近代媒体史、マンガの産業市場論、マンガ表現史などをたどり、リテラシーの問題を探求し、マンガが我々にとってどのような存在であるかを多角的に具体的に眺めてゆく。</p>	
	マンガ・アニメーション芸術批評研究	<p>我々自身の中のマンガ（あるいはアニメ、キャラクター文化など）という現象を問い、その主題化をいかにして研究として表現するかを、発表や討議を通して探求する。マンガ研究の定まった方法論はないので、方法論の模索そのものがゼミの主題であるともいえる。各自発表の主題は、基本的にはマンガやその周辺の事象と関連性を保ちたいが、発表と質疑による議論を中心にしたゼミなので、そのときどきの主題によって変化する。問題の組み立て、論理的な議論の形成を重視する。マンガを離れた主題も可能とする。</p>	
	舞台芸術文化論演習 古代ヨーロッパの演劇	<p>古代ヨーロッパの演劇を対象にし、その歴史と考古学をできるだけ詳しく具体的に研究したい。第1学期はギリシャ演劇を中心にし、第2学期はローマと中世の演劇について扱う。演習という性格上、学生による購読、発表を中心にし、適宜指導を行う。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
選択科目（文学部各学科共通科目）	舞台芸術文化論演習 モダンドラマ理論の研究	近年、いわゆる近代演劇の見直しが英語圏で進んでいる。高度で複雑なテキスト理論を駆使する文学研究によって、またより広大なフィールドを扱うパフォーマンス研究によっても脇に置かれた研究対象としての近代演劇／モダンドラマである。本授業では、19世紀の当事者の言説から始まり、20世紀前半の歴史的アヴァンギャルドにかかわる言説、さらに第二次世界大戦後の哲学的展開（ポスト構造主義、フェミニズム）、文化理論とも複雑にからみあう諸言説を集成した全4巻からなるModern Drama (Routledge, 2008)を読みすすめることにしたい。	
	映像芸術文化論演習	映画は、撮影と編集を中心に、様々な技法が交錯する場である。そうした技法の一つ一つに専門用語が与えられている場合もあれば（例：スローモーション、ジャンプカット等々）、作家ごと作品ごとに固有の技法もある。そうした技法を分類・整理しつつ、作品分析や作家研究の基礎概念として精練していくことがこの講義の目的である。同時に、具体的な作品や映画作家を取りあげ、そこで技法がどのように具体的な表現としての力を持ちうるかを考察する。	
	マンガ・アニメーション芸術文化論演習	アニメーションを「視覚文化」の一分野ととらえた上で、その作品や歴史や文化などを具体的に研究していくための「方法」をさまざまな角度から検討し、各自が実践していくことを目的とする。この演習での問題意識を明確にするため、まずは「歴史」という方法から検討を始める。単なる年表的知識ではなく、歴史的に思考するとはどういうことか。そのプロセスを通じて、作品を見て研究するさまざまな「方法」について検討する。次に、とて同じ作品であっても、研究や批評の態度によって異なった様相が見えてくることを踏まえ、ここではアニメーションを研究するためのさまざまな問題設定や方法を検討し、具体的に実践してみる。その後、アニメーション作品研究として具体的な分析と討論を行なう。また、受講者各自がテーマを選び、発表を行なう。質疑やディスカッションにより、授業内にて問題を検討していく。	
	身体表象文化論演習	本授業では、身体表象の様々な分野に共通する問題であるジェンダー表象をテーマとする。身体表象文化学専攻が扱う領域として、演劇、映像、マンガ、アニメーションがありますが、そのいずれにおいても、「身体」がジェンダーと密接に関連して「表象」されるという問題を避けて通ることはできない。身体が女性性と男性性の二つに分類され、それ以外のあり方を排除する考え方は、あくまでも近代の産物であり、特定の社会体制を前提とした思考である。この授業では、ジェンダー研究に必要となる理論への導入を行い、日常の現象に対してジェンダーという切り口から批判的な見方を習得することを目指す。授業では、ジェンダー研究に必要となる理論（ポスト構造主義、構築主義、パフォーマンス・ヴィジュアル理論など）への導入を行うとともに、受講者の研究テーマと関連した発表を行う形で進めていく。	
	表象文化制度論演習 ドラマの構造分析	この演習では、海外の〈演劇／劇場〉で使われる、作品創造のための理論（ドラマトゥルギー）の“初歩”を学んでいき、それをもとに戯曲の構造分析を行っていく。こうしたドラマトゥルギーに関する理論や分析の手法は、ドイツの劇場では「ドラマトゥルク」と呼ばれる文芸部員的な仕事を担うスタッフが、上演作品（レパートリー）を編成し、また演出家の作品創造をサポートしていく際に活用するものである。 ●第1学期では、西洋演劇のドラマトゥルギー理論の基礎を概観し、それぞれの理論が対象とした戯曲を1作選んで読解する。扱う理論と戯曲は、①アリストテレスの悲劇理論とソポクレスの戯曲、②フランス古典主義演劇の理論とラシーヌの戯曲、③19世紀末の市民劇のドラマ理論とイブセンの戯曲である。 ●第2学期では、日本の近現代劇を対象を絞り、岸田國士、別役実、平田オリザ、永井愛などの劇作家の戯曲を受講生それぞれが講読し、それらのドラマトゥルギーや上演形態を分析しながら演劇論的な意味を多角的に読み解いていく。 ●第2学期末には、受講生はあらためてそれぞれの課題となる戯曲を選んで、戯曲の構造分析をレポートにまとめる。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
選択科目（文学部各学科共通科目）	表象文化制度論演習 ファッション・ヘアメイクと映画	<p>舞台芸術をはじめとする文化は、社会のなかでどのように認知され、またどのような制度の中で存在しているのだろうか。日本においても、「文化」は、社会制度や政治経済の分野でも重要なキーワードの一つとして語られて久しいが、それが一般的な概念として広くコンセンサスを獲得しているとはいいがたい。一方、フランスをはじめとするヨーロッパでは、なおさまざまな議論があるとしても、一定のコンセンサスの上に芸術文化を支える制度が成立しているといえるだろう。また、この「文化」をめぐる社会制度のなかで、演劇は歴史的にみて重要な位置を占めてきた。そこで、この演習では、フランスの文化政策史を背景に、具体的な例として舞台芸術（演劇）をめぐる制度に注目し、日本などの制度やその歴史も対象しながら、その政策・制度を支える概念や思想を考察・検討する。必要に応じて演劇史を再確認する作業も行う予定である。</p>	
選択科目（総合基礎科目）	哲学	<p>本授業は、古代から現代に至る西洋哲学の流れを主たる哲学者の諸説をたどっていくことで、哲学という学問が何を問い、何をめざしているのかについて理解を深めることをめざす。過去の哲学者たちの思考が胚胎し展開していく現場に立ち会ってもらい、その思考を共有することを通じて、この授業が、受講者みずからが根元的に問い、考える機縁となることを願う。</p> <p>第1学期は、古代から近世・近代哲学へと至る過程において、真に存在するものは何かを問う存在論的パラダイムから、私たちは何を知り得るのかを問う意識論的パラダイムへの移行がどのように成し遂げられたかを跡づける。第2学期は、現代哲学に特徴的な言語論的パラダイムへの転換を中心に、現在優秀な諸哲学について批判的に検討していく。下記の3名の教員が担当する。</p> <p>59中川明博「西洋哲学の流れ」 31小島和男「哲学について」 60伊藤泰雄「身体・世界・表現」</p>	
基礎教養科目	美とロゴス	<p>哲学科の教員全員による輪講。 大きなテーマを一つ設定した上で、それぞれの教員は、哲学思想史と美学美術史という二つの分野の専門知識と方法を十分に活かして、多角的な考察を加える。自らが研究している時代や地域の美のあり方、あるいはロゴス（言葉、論理、説明）のあり方を踏まえ、具体的な問題設定のもとで、各人各様にこれを論じていく。これによって受講者は、専門のいかんを問わず、大きなテーマについてただ漠然と考えるのではなく、それを特定の方法で具体的に考察することの面白さと重要性についても学ぶことになる。</p> <p>（オムニバス形式） （全教員/5回）「イントロダクション」「コンクルージョン・全体討議」 （66高橋裕子/3回）「自然は芸術の師」 （65杉山直樹/3回）「自然とのつきあい方」 （61荒川正明/3回）「自然から生まれた日本工芸の魅力」 （31小島和男/3回）「隠れたがる自然」 （42佐野みどり/2回）「山水から風景へ」 （64新川哲雄/2回）「天地・花鳥風月そして自然」 （62島尾新/3回）「詩書画の世界」 （63下川潔/3回）「言葉とコンヴェンション」 （41酒井潔/3回）「西洋近現代の自然観から」</p>	オムニバス形式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
選択科目（総合基礎科目） 基礎教養科目	論理学	<p>「健全なものの考え方」とか「正しい推論」と言われるもの-論理的思考-が、どんな原則に従い、どんな条件を充たし、どう成立するか、といった論理学の基本的な諸論題について、日常的・非形式的なアプローチと形式的なアプローチの双方の局面から取り上げ、解説する。とくに前者のアプローチの裾野は広く、論理学は、必ずしも思考の過誤を自動的に検出する、無謬の精密器具のようなものにはなりえないが、私たちの思考が道を踏み外したり、およそ信頼のおけるものになったりする仕方や手だてについては、述べることは多くある。本講義は、論理学が第1に関わる立論（論証）の批判的評価という主題を主軸として、およそ大学生が論理的・批判的に思考するために必要とするであろう、また知っておくべきさまざまな観点と技能を話題にする。本講義が、我流の、生兵法の論理能力から脱却し、論理的・批判的に読み、判断し、願わくば書く、きっかけとなって欲しい。</p>	
	西洋倫理学史	<p>倫理学とは哲学を支える大きな柱の一つであり、特に「善」や「価値」の問題を扱う学問である。授業ではこうした問題に取り組んだ西洋の哲学思想家たちを古代から順を追って紹介しつつ、西洋における倫理学の歴史を概観することを目的とする。こうした概観を通じて、「倫理」的な生き方、「倫理」的な行為といえども、そうした語が示す意味はかなり多様であり、また歴史の変遷を経て現代に至るといったことについての理解を深める。最終的には「現代」の「日本」に生きている我々が「西洋」の現代倫理学だけでなくそもそもその「歴史」を学ぶ意義とは何か？ということについての眺望を各自が得られるようにしたい。</p>	
	東アジアと日本の倫理思想	<p>東アジアの諸国と日本とは、儒教や仏教などのある程度共通の宗教思想の背景を持っている。そのため、キリスト教を背景とする欧米諸国やイスラム教を背景とする中東・東南アジア諸国とよりは、相互理解しやすいとなんとなく思いがちである。しかし、実際にはさまざまな意識のずれが存在し、それが社会的・政治的なトラブル-たとえば靖国問題のような-の契機にもなってきた。こうした問題の背景の一つは、「宗教」の問題であり、それを背景とした「倫理」意識のずれである。とりわけ問題なのは、特に日本側が「なぜそれが問題であるのかすらわからない」ということである。</p> <p>本講義では、以上のような問題を理解する手がかりとして、東アジアの宗教とそれを背景とした倫理思想についてまず紹介したい。そして現代日本社会の倫理をめぐる諸問題について検討していきたい。その上で「東アジア」という視点から倫理の問題にどう取り組みうるかを考えていきたい。具体的には、まず第1学期には東アジアの宗教思想、すなわち、仏教・神道・儒教・東アジアのキリスト教などを取り上げ、現代の問題を考える上で、これらの古典的宗教思想がどのようなものであるかを紹介していきたい。そして第2学期に応用倫理的諸問題を手がかりに、現代社会において「倫理」がどのような形で要請されるのかを考えていく。</p>	
	現代思想	<p>この授業では、おもに20世紀のヨーロッパを襲った前代未聞の出来事が、現代思想にどのような試練を課したのか？また同時にどのような新たな思考の可能性のチャンスを与えたことになるのか？について、映像資料なども活用しながら考える。ホロコーストと証言の問題、故郷喪失者としてのユダヤ人、戦争や暴力の傷をめぐる和解・赦しの可能性、新たな共同性を考える上で芸術のもつ可能性などについて考える。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
選択科目（総合基礎科目）	科学の考え方	主として20世紀の科学哲学の議論の中からいくつかの問題を選んで紹介する。それらの問題への自分の答を考えることが、履修者それぞれの科学観を再検討し深めていく機会となることを目指す。真の知識の条件としての「根拠」、論理的な根拠付けの形態—演繹と帰納、生得的知識と経験的知識、経験論の哲学の考え方、単なる伝達的手段ではなく、知識の基礎としての言語、論理実証主義と検証の問題、ポパーの反証主義、「パラダイム」と相対主義的科学観、共役不可能性、観察の理論負荷性、近代科学の成立と現代人の世界観等を扱う。	
	思想史	本講義では、現代社会を見詰め直す思考力を養いたい。私たち人間はこれまでに様々な時代環境の中を潜ってきた。その歴史の中で多くの諸問題を当時の人々は抱え、その解決に必死に格闘してきた。今でも私たちのそのような状況は変わらない。まさにその時代の中で格闘してきた思想家や学派をそれぞれ取り上げ考察することによって、現代の諸問題との比較検討を通じ、先人達が私たちに提示する知識・知恵—人間本性観・社会観（世界観、宗教観、国家観等）—の有効性を探ろうと考えている。 第1学期はプラトンから宗教改革、第2学期は近代イギリス社会の形成（ホブズからスミス）を中心に扱う。	
	言語と文化	この授業では、言語と接点のある様々な問題を取り上げ、音楽・文学・歴史・自然・環境などと言語研究の関わりについて考察する。これにより、言語という概念の多面性およびその反映とも言える研究分野の多様性に触れ、言語研究の広がりを実感するとともに、言葉から見えてくる世の中の諸問題について主体的に考えることを目的とする。	
	比較文学	「白蛇伝」「聊齋志異」等、中国の怪談文学が日本の作家に与えた影響を考察し、外国文学の受容に関する知見を広める。島内景二『中島敦「山月記伝説」の真実』文春新書を教科書に使用し、唐代の伝奇と近代日本文学・総論、杜子春について、山月記について、明代の小説と日本・総論、白蛇伝について、「聊齋志異」の日本に於ける受容等について扱う。	
	舞台・映像芸術	フランスのリュミエール兄弟以来の、初期映画から現代映画にいたる世界映画史を概説しつつ、古今東西の重要作品をビデオやDVDで紹介する。この授業の第一の目的は、映画にじかに接することで、映画の面白さ・魅力を〈体験〉することにあるが、あわせて様々な撮影・編集技法、およびそれぞれのフィルムの歴史的・文化的背景を学ぶことにある。下記の2名の教員が担当する。 76藤崎康 75佐藤康「舞台芸術を考える」	
	芸術学	「芸術」について、あるいはその一分野、たとえば絵画について、多くの人はさまざまな漠然とした通念を持っている。「芸術」は生活にゆとりがあれば持ちたい「飾り」だ、とか、現実的に見える絵は画家が「見たまま」を写したものだ、というふうな。その通念を問い直し、新しい視点や知識を提供することによって、芸術に対する受講者の新たな関心を刺激し、理解を深めることをめざす。主要な例としては西洋美術、ことに絵画を中心に話す。比較例として他の芸術分野、他の地域の美術にも言及する。特に哲学科の1年生で美学美術史系を希望する学生は、受講することが望ましい。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
選択科目（総合基礎科目）	日本美術史	<p>飛鳥・白鳳時代から室町時代までの美術(主に絵画・工芸)について講義する。各時代の代表的な作品をとりあげ、主題・表現・技法、制作事情や機能など、作品の理解に欠かせない諸点について、当時の社会・文化状況をふまえ、説明する。授業では、古代から中世における日本と、中国大陸・朝鮮半島との歴史的文化的関連を特に重視し、美術の流れを理解することを目指す。日本が、大陸や半島とどのように関わり、そのなかでいかなる文化・美術を生み出してきたか、作品(授業内容に掲げた各時代の代表作を中心とする)に即して、詳しく見てゆく。各国の作品を比較して近似や相違を見出す、あるいは、大陸や半島の美術の受容・摂取とその意義を時代ごとに考えるなど、文化的関連を多角的に辿る。</p> <p>これから日本美術史を学ぼうとする人も、美術史の知識が既にある人も、作品を多面的に見ることによって、日本の美術に対する理解を深めたい。</p>	
	西洋美術史	<p>「西洋美術史」とは何か。「西洋」とはどのような地域を指し、「美術史」とはいつからいつまでの時代の何を対象としているか。また、誰によって考案されたのか。本講義は、西洋美術史を初めて学ぶ人を対象とし、その概要を探る。形式としては、それぞれの時代の特徴や社会的・文化的背景などを学ぶ、西洋美術史の通史ということになるが、美術史にとって一番大切なことは作品自体を「見る」ことである。主として絵画から具体的な作品の例を取り上げ、細かく観察し、作品を読み解くということも本講義のもう一つの柱となる。様々な時代と地域を渡り歩き、美術史の世界を探検。</p>	
	音楽史	<p>本講義では、西洋音楽史において一般に「バロック」と呼ばれる17世紀から18世紀半ばまでの音楽を論じる。まず様々な問題を含む「バロック」という概念に関して考え、次にこの時代の代表的な音楽ジャンルを概観する。その後、それらの音楽を支える美的・技術的な理論や社会背景などについて解説し、西ヨーロッパの主要な国における音楽をそれぞれ見る。</p> <p>受講者はこの講義を通じて、単なる趣味の領域を超えた「音楽」の芸術的・社会的価値を理解するための感覚を養ってほしい。</p> <p>(78山本成生/前期15回)「歴史からみる音楽の西洋と日本」 (79豊永聡美/後期15回)日本音楽の歴史の変換を概観するとともに、各時代における日本音楽の特徴を把握する。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
選択科目（総合基礎科目） 基礎教養科目	日本の伝統芸能	<p>日本に伝承されているさまざまな伝統芸能について、専門の研究者や第一線の舞台上で活躍している俳優・演奏家・脚本家の理論的解説や実技、演奏を聴く。伝統芸能の声、音色、リズム、身体表現、ものの考え方や約束、歴史などを学ぶ。豊かな日本の風土で熟された完成された伝統芸能の美しさ・奥深さをすることを期待する。</p> <p>（オムニバス形式）</p> <p>(80藤澤茜/10回)「ガイダンス」「日本の伝統芸能総論」「伝統芸能と現代社会」</p> <p>(98三田徳明/2回)「雅楽-理論と実技」</p> <p>(81石川高/1回)「雅楽-理論と実技」</p> <p>(97前田晴啓/3回)「能-理論と実技」</p> <p>(88亀井広忠/1回)「能-理論と実技」</p> <p>(82石田幸雄/2回)「狂言-理論と実技」</p> <p>(99森谷裕美子/2回)「文楽-理論」</p> <p>(93豊澤龍爾/1回)「文楽-実技」</p> <p>(94豊竹睦大夫/2回)「文楽-実技」</p> <p>(86小濱明人/1回)「尺八-実技」</p> <p>(90後藤幸浩/1回)「琵琶楽-実技」</p> <p>(87片山旭星/1回)「薩摩楽-実技」</p> <p>(92月岡祐紀子/1回)「警女の芸能-実技」</p> <p>(85小川富美夫/1回)「歌舞伎-理論」</p> <p>(91十三代目田中傳左衛門/1回)「歌舞伎-実技」</p> <p>(84今井豊茂/1回)「歌舞伎-理論」</p> <p>(95二代目中村鶴亀/1回)「歌舞伎-実技」</p> <p>(96野澤松也/1回)「歌舞伎-実技」</p> <p>(100柳家喬之助/1回)「落語-理論と実技」</p> <p>(89三代目神田松鯉/1回)「講談-理論と実技」</p>	オムニバス形式
	法学	<p>現実に発生する具体的な問題を通して、憲法の基本的な考え方を学ぶ。概念的な憲法ではなく、生きた問題点を通して、思考訓練をすることを目標とする。まずは、憲法の基本的な考え方を学び、続いて、人権を巡る諸問題を考察する。第2学期は、裁判員制度・選択的人工妊娠中絶・死刑制度といった現代的な問題も取り上げる。</p>	
	日本国憲法	<p>「自由でありたい」という誰もが持っている願い。しかし、「自由とは何か」と問われると、その答えは千差万別である。また、日本国憲法が規定する様々な自由と「厳しすぎる校則」という言葉に代表される今日の学校教育の有り様は極めて対称的である。</p> <p>憲法の講義は、通常、人権と統治機構の二分野で構成される。この講義は、主に人権の分野を中心として進める予定である。法と教育の間に存在する対立と調和を、日本国憲法が想定する「人間像」及び「自由のための教育」という視点から解き進めていく。講義を通じて、アメリカの哲学者であるリチャード・ローティによる「個性を開花させる以前に、まずその社会化が行われなければならない。自由のための教育は、自由に対する一定の制約が課された後でなければ始めることができない。」という言明の意味を理解してもらえば幸いである。</p>	
	政治学	<p>本授業は、政治を理解するために必要な政治学的な見方や、政治に関わる主要な概念を学ぶことを目的としている。政治学の入門講義として、時事的な問題や各テーマの理解に必要な歴史などをまじえて、他の分野を専攻する受講者にも、政治学や日本の政治のアウトラインがつかめるようにしたい。政治と権力、民主主義、自由主義、政党と政党制、現代日本の政治、福祉政策、議会と国会、選挙と選挙制度、利益集団、政治家と官僚、首相のリーダーシップ、メディアと政治、地方自治、国際政治などを取り上げる。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
選択科目（総合基礎科目）	社会学	本授業の目的は、初めて社会学に接する学生に、社会学がこれまで蓄積してきた知見や理論の一端を理解してもらうことである。各講義では、社会学が対象としている諸テーマから特に下記のものを取り上げ、できる限り現代日本の状況やデータに触れながら解説するほか、社会学の理論的な枠組み・方法論も併せて説明するというスタイルをとる。受講者には、自分たちが暮らしている社会についての具体的な知識とともに、現実に出会う様々な社会現象を社会学的に捉えるための方法も身につけてもらいたい。	
	経済学	本授業では経済学の入門的な説明をおこなう。ミクロ経済学、マクロ経済学と呼ばれる経済学の分析の手法を通して、新聞等で報道される政治・経済問題を理論的な視点から考えられるようになることが授業の目標である。講義の前半では、現実的な経済問題に焦点をあて、ミクロ経済理論やマクロ経済理論、実験などを扱う。後半では、ゲーム理論を使い、オークション、選挙行動、環境問題などの分析を紹介する。	
	イスラム世界	第1学期はイスラーム勃興の背景とその教義、そして初期の政治史を中心に授業を進める。第2学期はイスラーム世界において行われた諸学問の概要及び西欧との関係について講義する。これによって前近代イスラーム世界の基本的事項をおさえるとともに、特にヨーロッパ世界との密接な関係を示すことが本授業の目的である。	
	ヨーロッパ世界	東南アジアやヨーロッパにおいて地域統合の動きが活発化しており、こうした現状は、「フランス」、「イギリス」、「ドイツ」などという枠組みでおこなわれてきた歴史の分析方法に対して疑問を投げかけている。本講義では、第1に、20世紀ドイツの事例に即しつつ、人の様々な形態の動き(移住、亡命、旅行、移動の制限など)を検討し、移動の点から時代と社会を考察する。第2に、それらの考察を通じて、現在の私たちが知るヨーロッパ世界がいかに形成されたのかについて考える。 (107藤崎衛/前期15回)「史料と映像でたどる中世西ヨーロッパ史」 (108白川耕一/後期15回)「移動から見たヨーロッパ」	
	東アジア世界	近代中国においては、「革命」という手段をもってネイション形成が試みられた時期があった。その中で、魯迅は伝統的な知識人からの脱皮を試みる精神革命の担い手として登場し、また毛沢東は、マルクス主義的な実践を近代中国において土着化させようとした、と言える。両者の立ち位置は違ったものであったが、共通するテーマがあった。それは例えば、知識人の「思想改造」というテーマであった。本講義のねらいは、両者の思想と行動を比較することを通じ、中国が通過せねばならなかった特異なネイション形成にかかわる「痛み」を理解し、今日の現代中国の歴史的基礎を確認することである。	
	神話学講義	神話とはとりあえず、世界や人間や文化の起源を語ることによって、いまの世界を基礎づけ、人々に生き方のモデルを提供する聖なる物語であり、神話学とは、その神話を研究する学問である。しかも、神話は宗教や祭祀・儀礼と深い関わりを有し、源を共有するともいわれる。それゆえ、神話学は世界をその根源から照らし出す、トータルな知の営みともなるのである。本講義では、比較神話学の方法によって、日本神話の起源や特色についての認識を新たな地平へと導いた吉田敦彦氏の著書に学びながら、神話のもつ根源的な力に眼を凝らしてみたい。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
選択科目（総合基礎科目） 基礎教養科目	歴史に見る日本	古代律令制国家建設の起点となったとされる大化改新。その実態を明らかにするには大化改新の契機となった政変＝乙巳の変の実像とその意義を解明する必要がある。授業では受講生の知らない政変をめぐる人間関係や事件の展開を明らかにする。 (111遠山美都男/前期15回)「乙巳の変から見た大化改新論」 (112鶴飼政志/後期15回)「生麦事件・薩英戦争・下関戦争」	
	歴史に見る世界	ユダヤ人は、ローマ帝国の支配下に置かれていた紀元70年にいわゆる「第二神殿」が破壊されてから、第二次世界大戦後のイスラエル建国まで、自分たちの国家が持てない離散状態にあった。しかしながら、世界中に散らばった彼らは当時の世界と様々な関係を結びながらユダヤ人社会を形成していったことは周知の通りである。本講義では特に近現代ヨーロッパ史との関連の中で、形成されたユダヤ人社会とヨーロッパ社会との関係とはどのようなものであったのか、なぜ彼らは差別の対象となることが多いのかといった点について考察する。 (113川崎亜紀子/前期15回)「近代ヨーロッパとユダヤ人」 (114福島恵/後期15回)「ソグド人から見る東部ユーラシア」	
	宗教の現在	幕末以降に誕生した新しい宗教教団は多少の侮りの意味もこめて、「新興宗教」とか「擬似宗教」などとよばれたこともあった。しかし、時の試練に耐えて生き延びた宗教教団の影響力は大きなものがあり、その刺激を受けた伝統宗教も新生の道を追求している。21世紀は宗教の時代という予測も全般的な外れとはいえない。本講義は東アジアや伝統宗教までを視野に入れながら、多方面から宗教のあり方を検討する。コンピュータや遺伝子学に代表される科学の発展とは裏腹に切実に希求される人間の心の回復の問題を多方面から明らかにする。 (オムニバス形式) (林東洋/17回)「ガイダンス」「日本の現代仏教」「日本人とキリスト教」「まとめ」 (115井上順孝/3回)「現代宗教への視点」 (121三島まき/3回)「日本の民族宗教」 (116小平美香/3回)「神道の現在」 (117川村湊/3回)「文学と宗教」 (119丹羽泉/3回)「韓国の現代宗教」 (118中野毅/3回)「グローバル化と宗教」	オムニバス形式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
選択科目（総合基礎科目） 基礎教養科目	現代科学	<p>宇宙の誕生から生命の仕組みまで、現代の自然科学とそれを支える技術開発の状況、また研究の考え方・進め方などについて、最先端の研究者を講師としてお招きし、文系の学生にもよく理解できるように平易に解説していただく。この講義を通じて、現代科学への関心を広げ、科学と人間社会の関わりについて考える材料を発見してくれることを期待している。</p> <p>（オムニバス形式） (137井田大輔/8回)「オリエンテーション/ブラックホールのエンタロピー」「総括」 (132田崎晴明/1回)「マイクロとマクロの物理学」 (136渡邊匡人/1回)「混ぜる科学」 (135横山悦郎/1回)「国際宇宙ステーションにおける氷の結晶成長」 (122荒川一郎/1回)「極限を作る技術」 (134平野琢也/1回)「量子と情報のはなし」 (144常田佐久/1回)「太陽観測最前線 - 地球は寒冷化するか? -」 (123赤萩正樹/1回)「超高压化の物質の世界」 (128稲熊宜之/1回)「機能性セラミックス材料の化学 - リチウム電池と白色LED（発行ダイオード）を例として -」 (127石井菊次郎/1回)「水H₂O - 神様からの贈り物 -」 (124秋山隆彦/1回)「医療品の合成と有機化学」 (140小宮三四郎/1回)「触媒の不思議 - セレンディピティー」 (145西宮伸幸/1回)「2015年に幕をあける水素エネルギー社会」 (146西傘田守/2回)「ミネラルと健康 - 元素レベルの健康科学 -」 (126飯高茂/1回)「ゲームと破産の数理」 (133中野史彦/1回)「身近な数学」 (139小川束/1回)「江戸時代の数学者と現代の科学者」 (130岡本治正/1回)「脳の過去、現在、未来」 (138岩田誠/1回)「描くということ」 (141佐谷秀行/1回)「がん細胞の社会学」 (147正宗賢/1回)「医療福祉工学」 (129岡田哲二/1回)「感覚を担う分子」 (131清未知宏/1回)「植物の概日リズムと花芽形成」 (125安達卓/1回)「細胞を殺して個体が栄える仕組み」 (143高橋淑子/1回)「動物の発生」 (142杉山和夫/1回)「ウイルス感染症を正しく理解するために」</p>	オムニバス形式
	数学	<p>最近文系の様々な分野で微分積分学を使いこなす力が要求されている。また、行列を用いた簡潔にして正確な表現もよく見られるようになった。そこで、高校2年生までの数学に接続して、必要な微分積分学と最低限の行列の知識を学ぶ。内容的には、経済系の人にとってはミニマム・エッセンスであり、また他の文系の人にとっても、「ハイレベル教養人の常識」となることを目指す。</p> <p>微分積分学に関しては、文系で使われる基本的なテクニックについては例題をたくさん取り上げて、微分積分学がしっかり使えるようになることを目指す。そのことを通して、人類文明史上最大の達成の一つである「微分積分学」の素晴らしさを実感し、自由に使えるようになることを最大の目標とする。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
選択科目（総合基礎科目） 基礎教養科目	歴史の中の数学	<p>学問としての数学の誕生から始めて、文明史の流れの中で微分積分学の偉大さを改めて再認識する。ニュートンやライプニッツ達を取り上げた問題とその解法も紹介する。今の微分積分がいかに使いやすく、また強力な理論的武器であるかがよく分かる。天才達のエピソードやインスピレーションに満ちたアイデアもたくさん紹介して理系の人にも興味を持てる内容とする。文系でも使われる基本的なテクニックについては例題をたくさん取り上げて、微分積分学がしっかり使えるようになることを目指す。</p>	
	現代社会と数学	<p>本授業では「数学は役に立たない」、「数学は難しい」などの誤解を実践的に解消することを目指す。扱う問題は公務員試験から取ってきているので、日常で有効なものがほとんどである。ほとんどが小・中学校の知識で解ける。「パズルで頭の体操をしよう」の気持ちで取り組むこと。その中で、数学という学問の真の姿を見つけていくことができるだろう。</p> <p>なお、最後の2回は、のり・ハサミ・セロテープを用いてものを作り問題に挑戦する。なお、第2学期の「社会の中の数学」でも引き続きこの狙いを深める。</p>	
	社会の中の数学	<p>本授業では第1学期の「現代社会と数学」に引き続き、これらの誤解を実践的に解消することを目指す。ただし、数字や文字に関することや論理的な観点から数学的な思考法に迫る。具体的には、目的・方針の説明、問題配布等、和算の思考法、手順の問題、歯車の回転、言葉の概念の包含関係、暗号の解説、言葉と集合、解説から状況を読み取る、統計でだまされないために、視聴率の意味などについて講ずる。</p>	
	時間・空間・物質の科学	<p>文系・理系を問わず、大学で学ぶ社会科学、人文科学、自然科学の根底の教養として、自然界への視野を開き常識を広め、科学的思考の一助となる授業を目的とする。自然とは何かを時間、空間、物質、そして総合としての生命という視点から眺め、自然の成り立ち・仕組みに興味深い現象を通して具体的にしながら理解し、人間と自然のかかわりを考える機会とする。</p>	
	環境・エネルギーの化学	<p>人類は、豊かさ・便利さに心を奪われ、それらへの欲求のみを追求してきた結果、資源やエネルギーを浪費し、環境を破壊し続け、今、自ら作り上げた文明に脅かされ始めている。人類が作り出した化学物質は我々に多くの恩恵をもたらしたが、今後は、環境とそこに住む生物の安全性を考慮した上での化学物質の開発や化学技術の発展が望まれる。化学は物質の構造、物性（性質）、及び反応（変化）の三要素を研究する学問であるが、加えて自然（地球環境）とそこに棲息する生命を認識する学問であることが求められている。本講義では、第1学期で化学の基礎を解説し、次に生体を構成する物質の化学について紹介し、さらに生命現象を化学で説明する。第2学期の授業では、環境、エネルギー、そしてエネルギーを消費している人間との関わりを第1学期で学んだ化学の視点から解説する。我々が地球という環境の中に他の生物と同様に「生かされている」ことを再認識し、個々の地球環境を守る意識と行動が今必要とされていることを強調したい。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
選択科目 (総合基礎科目)	生物学	<p>生命(いのち)とは、不思議なものである。それは、物質や心と、どんな関係にあるのだろうか？ 生物学は、誰もが認めることを出発点に、積み重ねのできる方法で生命の問題に取組み、驚くべき結果を手にした。たとえば、「すべての生命はつながっている」、「美しいDNA二重らせんの中に生命の秘密が隠されている」というような結果である。本授業では、「生物学とは何か」を、いろいろな視点からわかりやすく解説する。また、生物学を学ぶことで、様々な問題を深く考えられるようになることを目指す。</p>	
	心理学	<p>私たちが漠然と抱いている「こころ」と称する対象について、その理解の仕方はさまざまである。この講義では「こころの科学」の理解を目指していく。心理学者たちは、見ることも触れることもできない対象である「こころ」をどのようにして科学的に捉えようとしているのか。まず、心理学の成立の背景事情にふれながら心理学の視点について考え、「こころ」の心理学的な考え方の理解に努める。これを踏まえて、人間の知性にかかわる「こころ」の諸機能(感覚・知覚、記憶、認知など)、人間(動物)行動にかかわる「こころ」の諸機能(学習、動機づけ、情緒)、そして、人間の発達過程(遺伝と環境の問題)など、「こころ」のもつさまざまな側面の理解を通じて、その優れた環境適応性を考えていく。</p>	
	スポーツと健康を考える	<p>第1学期は健康問題に関するテーマで、第2学期はスポーツ科学に関するテーマで講義を行う。 (オムニバス形式) (159廣紀江/8回)「オリエンテーション」「嗜好品について」「薬物について」「運動と栄養(栄養について)」「運動と栄養(エネルギー代謝)」「肥満について」「心の健康(心身相関・ストレスについて)」「まとめ」 (157小野太佳司/7回)「現代人の健康-3大死因(ガン、心臓病、脳血管係疾患)」「現代人の健康-生活習慣病(高血圧、動脈硬化、糖尿病)」「現代人の健康-生活習慣病(肥満)」「成育過程とメンタルヘルス」「救急法」「テスト」 (158高丸功/7回)「スポーツとスキル1・2・3」「スポーツとメンタル1・2・3」「試験」 (160羽田雄一/8回)「体力トレーニング1 骨格筋の構造と筋収縮」「2 トレーニングの原理・原則」「3 筋力・パワートレーニング」「4 持久力トレーニング」「5 調整力・柔軟性トレーニング」「6 トレーニング計画」「まとめ」「試験」</p>	オムニバス形式
	スポーツ科学演習	<p>スポーツや運動を生理学、心理学、戦術学、力学及び栄養学的側面から解説する。 身体の生理機能として運動と密接に関係する神経・筋組織・呼吸循環系器官の構造と機能を主に取り扱い、運動適応による変化(トレーニング効果)を学習し、目的に応じたトレーニング方法を学ぶ。 また、神経系のトレーニングの一端として運動技術の構造、スポーツ戦術の構造、動作分析、運動学習理論、精神力の構造などをとりあげ、スポーツをとりまく広範囲にわたる基礎知識を得るとともに、それらの基盤となるスポーツや運動に関連する学術論文を紹介することにより自然科学的思考を養う。 授業のまとめとしてスポーツ及び運動に関係する分野から自分の興味のあるテーマで、ポスター発表、または、レポートを作成する。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
選択科目 (総合基礎科目)	生命論	<p>「つながり」をキーワードに、東洋的思惟の立場から「いのち」を考えてゆく。大まかに言えば、東洋では自己を含めた全体とのつながり・関わりの中で、「いのち」ということを発想する。本講では、このような生命現象についての日本人の言説を軸に、中国・インドの考え方と比較検討し、その上で、生命をめぐる現代の様々な問題について考えていく。具体的には、現代医療、生命工学技術でのめまぐるしい進歩にともない人類が期待する恩恵と、直面する問題点を理解するために、安楽死、尊厳死、生殖補助医療、再生医療、ゲノム解析、遺伝子治療などをめぐる世界の動向と、日本の現状を学ぶ。</p>	
	エコロジー (環境問題と経済社会)	<p>2009年12月にコペンハーゲンで開かれたCOP15から明らかなように、地球環境問題は、地球的規模で解決策を考えなくてはならない課題である。ただ、地球環境問題は多岐にわたるため、本講義では、環境問題を経済社会面から考察する各専門家のオムニバス講義形式により、この問題を多面的に理解することを目的とする。 (オムニバス形式)</p> <p>(163宮川努/6回)「エコロジー授業の狙い」「気候変動と環境問題」「日本・世界の環境問題」「まとめ」 (164飯倉穰/6回)「循環型社会への取り組み1・2・3」「環境と国際貿易」 (165内山勝久/6回)「環境と経済成長1・2」「世界の環境政策」 (166落合勝昭/6回)「日本のエネルギー」「環境とエネルギー1・2・3・4」 (167浜渦純大/6回)「地球エコロジー1・2」「都市と環境1・2・3」</p>	オムニバス形式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
選択科目（総合基礎科目） 基礎教養科目	エコロジー・環境論 1	<p>環境問題は現代社会においてますます重要な課題であり、様々な分野と関連をもって複雑に絡まっている。そのため、この問題を理解するためには、自然科学および人文・社会科学の両方の視点からの多面的なアプローチが必要である。</p> <p>「エコロジー・環境論 1」では「廃棄物問題とリサイクル」に焦点を置く。その歴史から始まり、廃棄物管理の考え方、自然界での物質循環との関連、企業における環境対策技術、自治体における取り組み、国際的な動きなどについて、分かり易く解説する。企業や自治体の専門家による講義も予定されている。身近なことからグローバルな問題まで、廃棄物を中心に、エコロジーと環境について考える。</p> <p>（オムニバス形式） (169岡村りら/3回)「序論及び概説」「廃棄物とは?」「海外での取り組み：ドイツの事例など」 (170大隅多加志/2回)「廃棄物管理の自然科学からの知見」「環境ホルモンと生態系」 (174陶山純子/1回)「企業における取り組み(1)都市鉱山と資源リサイクル」 (171天知誠吾/2回)「自然界での物質循環における環境微生物の役割」「微生物を用いた環境保全技術」 (172位地正年/1回)「企業における取り組み(2) バイオプラスチック」 (175服部仁/1回)「企業における取り組み(3) 環境負荷削減技術の開発」 (168村松康行/1回)「放射性廃棄物とその処分」 (173加藤正/1回)「自治体の取り組み」 (169岡村、168村松、170大隅/3回)「私たちにできる事」</p>	オムニバス形式
	エコロジー・環境論 2	<p>「地球温暖化」に焦点を置き、気候変動の原因やその対策について、広い視点から考える力を養うことを目的とする。内容的には、自然界における二酸化炭素の循環から始まり、過去における二酸化炭素濃度の変化と気候変動、温暖化のメカニズム、エネルギー問題、温暖化対策技術や考え方などを紹介する。</p> <p>（オムニバス形式） (168村松康行/3回)「序論及び概説」「温暖化の原因とメカニズム」「グローバルな視点から見た気候変動」 (170大隅多加志/1回)「温暖化による諸問題」 (169岡村りら/2回)「気候変動防止の政策と対策-1」「気候変動に対する海外の取り組み」> (178渡部良朋/1回)「森林・農地の機能と役割」 (169岡村りら/2回)「気候変動防止の政策と対策-2」 (170大隅多加志/2回)「エネルギー問題」「二酸化炭素の処理処分」 (176相田智/1回)「温暖化対策技術(1) エコカーの現状と今後」 (177山崎隆司/1回)「温暖化対策技術(2) 都市部商業地区における取り組み」 (168村松、169岡村、170大隅など/3回)「私たちができる取り組み」</p>	オムニバス形式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
選択科目（総合基礎科目） 基礎教養科目	福祉	<p>急激な少子高齢化、長引く経済不況にあって、福祉もまた危機に瀕し、その見直しの急務が叫ばれているのは周知の通りである。その場合に大事なことは、福祉は単に行政や法や制度上の問題ではなく、まして、個人の善意や献身に丸投げされ得るようなものではない（さりとて、安易な自己責任論にも与することはできない）ということである。つまり、福祉とは単なる社会問題や、あるいは個人の憐憫や慈善に尽きてしまうのではなく、むしろ私たちが、この社会の中で他人とどのように「共に生き」、行動し、自らの充足感を得ることができるのかという、身近で切実な、まさに哲学的かつ行動的ともいえるような問いであるだろう。</p> <p>そこで、本講義では、いわゆる「理論」と「実践」を区別するのではなく、むしろ一体としてとらえ、私たちを取り巻くさまざまな福祉の分野から、各専門の講師を招いて、その今日的現状と緊急の課題について明らかにしてゆく。それらの分野とは、貧困・低所得者、エイズ、老人医療、高齢者福祉政策、女性福祉、家族福祉、児童福祉、行動福祉、医療保険などである。各講師は、行政機関職員、NPO職員、医師、福祉関係学科教員、スーパーヴァイザー、ソーシャルワーカーなどとして、現場の第一線で活躍している。各講義を通じてそれらのリアルタイムの現実の一つ一つ触れながら、あらためて「幸せとは何か」、「生きがいとは何か」について考えてみたい。</p> <p>（オムニバス形式） (161岡野浩/5回)「ガイダンス」「福祉」とはどのような意味か。一年間の授業計画「家族福祉から「共生」を考える」「共生社会のあるべき姿を求めて(2)」「まとめ」 (182大迫正晴/2回)「ホームレスの現状とその支援」「生活保護の現状と課題」 (185池上千寿子/2回)「エイズをめぐる諸問題」 (180高橋龍太郎/3回)「老人医療と福祉」 (184馬場純子/2回)「高齢者福祉と介護保険制度」 (183奥川幸子/3回)「老人問題の現場から」 (187堀千鶴子/2回)「女性福祉」 (188武井かおる/1回)「女性保護事業の現場から」 (186鈴木公基/3回)「児童福祉」 (181小野昌彦/3回)「障害児・不登校・行動福祉」 (179遠藤久夫/1回)「医療・保険」 (161岡野浩/3回)「共生社会のあるべき姿を求めて(1)」「まとめ」</p>	オムニバス形式
	ボランティア論	<p>ボランティアの諸相、活動の実態、意義、課題などについて多角的に考察することで、学生のボランティアに対する理解を深め、その多様性を知る契機とすることを目的とする。</p> <p>トピックは以下の通りに講義やワークショップ（参加・参画型授業）を行う。</p> <p>(11長沼豊/10回)「ガイダンス」「ボランティアとは何か」「ボランティア概論」「学校教育とボランティア」「ボランティアの弱点・課題」「まとめ」他 (144森良/3回)「まちづくりとボランティア」 (192三具淳子/3回)「高齢社会とボランティア」 (183妹尾信孝/3回)「福祉・人権とボランティア」 (47伊藤忠弘/3回)「心理学から見たボランティア」 (191安藤雄太/3回)「ボランティアのあゆみからみた社会的役割」他 (189上田隆穂/1回) 国際協力とボランティア (1) (9佐藤陽治/1回) 国際協力とボランティア (2) (190眞島史叙/1回) 国際享徳とボランティア (3)</p>	オムニバス形式
	情報処理と現代社会	<p>企業の情報システムに対する要求は、処理効率を追求することからビジネスモデルの戦略的な変革へとその軸足を移してきている。本講座では、受講者自らインターネットを利用してさまざまな情報通信システムの具体的な活用事例を調べる。また、グループ学習を通じて知識社会における情報の価値や情報通信システムを活用することの戦略的重要性を理解する。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
選択科目（総合基礎科目） 基礎教養科目	ジェンダーと文化	<p>ジェンダー研究は女らしさだけではなく、男らしさもまた社会・文化的に形成されたものであることを明らかにした。男性学とは男性が男性であるがゆえに抱える「男性問題」を、ジェンダーの視点から問う学問である。講義では現代の日本社会を中心に、男性と男らしさをめぐる諸問題について考察する。各種の調査データや映像資料などを参照しながら、いかにして男らしさが社会的・文化的につくられていくのかを検討していく。学術的な議論に終始するのではなく、仕事や恋愛といった身近なテーマを取り上げることで、受講者一人ひとりが自分の問題としてジェンダーを考えられるようになっていきたい。</p>	
	記録保存と現代	<p>近年、ずさんな「記録保存」が私たち国民の権利を脅かしている現状が、各方面で次々と明るみに出ている。「記録」や「文書」は歴史の重要な史料であり、記憶を未来に伝えるための大切な証拠であるだけでなく、現代に生きる私たちの人権や生命を守るための情報資源でもあることが指摘されている。このような考え方にに基づき、あらゆる方面で現代社会に不可欠な記憶装置として重要視されつつある「アーカイブズ」について世界と日本における歴史と現状を紹介する。</p> <p>（オムニバス形式） (197安藤正人/13回)「オリエンテーション」「アーカイブズの歴史」「現代のアーカイブズ」「1年間の総括」 (43高埜利彦/1回)「現代社会とアーカイブズ-総論-」 (211立川孝一/1回)「アーカイブズの歴史」 (212富善一敏/1回)「アーカイブズの歴史」 (201太田富康/1回)「アーカイブズの歴史」 (209高橋実/1回)「アーカイブズの歴史」 (213森本祥子/2回)「現代のアーカイブズ」 (210高松洋一/1回)「現代のアーカイブズ」 (203金慶南/1回)「現代のアーカイブズ」 (202小川千代子/2回)「現代のアーカイブズ」 (206小宮山敏和/1回)「現代のアーカイブズ」 (208高木秀彰/1回)「現代のアーカイブズ」 (199青木直己/1回)「現代のアーカイブズ」 (204桑尾光太郎/2回)「現代のアーカイブズ」 (207高岩義信/1回)「現代のアーカイブズ」 (205児玉優子/2回)「現代のアーカイブズ」 (200青木睦/2回)「現代のアーカイブズ」 (198保坂裕興/1回)「現代のアーカイブズ」</p>	オムニバス形式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
選択科目 (総合基礎科目)	記録管理と組織	<p>本来、組織というものは、国家であれ地方自治体であれ大学であれ、あるいは学生サークルであれ、情報と記録なしには持続的な活動ができない。適切な記録管理（レコードマネジメント）は組織運営の要と言える。本授業では、学生の多くが将来勤めることになる企業や行政機関で、情報や記録がいかに重要な役割を果たしているかを学び、適切な記録管理とはどういうものかを、歴史を踏まえながら考える。授業は3部に分かれ、第1部は「記録管理の歴史と現在」、第2部は「現代の行政と記録管理」、第3部は「現代の企業と記録管理」を行う。コーディネーターは、本学大学院人文科学研究科アーカイブズ学専攻の安藤正人教授。なお、本授業と合わせて「記録保存と現代アーカイブズへの招待」を履修すると、よりいっそう学習効果があがる。</p> <p>(オムニバス形式) (197安藤正人/2回)「オリエンテーション」 「総括」 (216水野保/4回)「記録管理の歴史と現在」 (215水口政次/4回)「現代の行政と記録管理」 (214西川康男/5回)「現代の企業と記録管理」 「4回の講義のまとめ」</p>	オムニバス形式
	生活と法	<p>裁判員裁判の時代を迎えて、日本社会も大きく変わろうとしている。裁判員制度は、「狭い法律世界」の出来事にとどまらず、日本の社会そのものを変える出来事である。なぜ、そういうことになるのか。本講義では、狭い法律学の講義というより、より広く日本社会の特質や世界からみた日本という視座から、裁判員制度とそこで用いられる刑事法という法律の考え方を講義し、その理由を受講生と共に探索することとしたい。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
選択科目（総合基礎科目） 基礎教養科目	アジアを学ぶ	<p>グローバル化がすすむ現代では、政治・経済・文化・社会・歴史などの問題は、相互に複雑に関連している。この授業では日本・中国・朝鮮・インドネシア・インドなどアジア諸地域の諸問題について、アジアを私たちはどのように理解するのか（してきたのか）、これから私たちはどのように関わってゆくのかを考えてゆきたいと思う。学内外の研究者によって、様々な研究プロジェクトが進められてきたが、これらの研究プロジェクトに実際に参加した先生方23名が、ヴァリエーションに富んだ下記のテーマをわかりやすく解説する。アジア地域の諸問題に関して、様々な角度から分析を加えていくことで、グローバルな視野を持ってもらう。</p> <p>（オムニバス形式） (231堀内淳一/6回) 「ガイダンス・イントロダクション」「理解度の確認」「中国史の北と南」「中国古代の文字と記録媒体」「中国の現代文化とコンテンツ」「まとめ」 (189上田隆穂/1回) 「中小企業集団による中国への進出」 (223鶴間和幸/1回) 「リモートセンシングと始皇帝陵」 (9佐藤陽治/1回) 「内モンゴル紀行」 (232村松弘一/3回) 「黄土高原の砂漠化と日本のNGO」「古写真からみる東アジア」「中国史における都市」 (228馬淵昌也/1回) 「東アジアの陽明学」 (225中田喜万/1回) 「東アジアの政治思想」 (44高柳信夫/1回) 「近代中国と儒教」 (220大澤顯浩/1回) 「東アジア書誌学への招待」 (197安藤正人/1回) 「アジアのアーカイブズ」 (41酒井潔/1回) 「ライブニッツの中国不況論」 (229村主道美/1回) 「インドと中国」 (221岡孝/1回) 「東アジアの高齢者と法」 (226橋本陽子/1回) 「東アジアの非正規雇用と法」 (222草野芳郎/1回) 「アジアへの日本型「WAKAI（和解）」」 (219磯崎典世/1回) 「東アジアの選挙」 (224中井良文/1回) 「中国政治入門」 (6齋藤利彦/1回) 「加速化するアジアの教育改革」 (3諏訪哲郎/1回) 「沸騰する中国の教育改革」 (126飯高茂/1回) 「東アジアの数学教育」 (230村野良子/1回) 「東アジアの日本語教育」 (227前田直子/1回) 「東アジアの言語と日本語の文法」 (218安部清哉/1回) 「東アジア・環太平洋」</p>	オムニバス形式
	日本語表現法	<p>大学生に必要な文章力を身につけることを目標とする。自身の文章レベルを確認しながら、伝えたいことを明確に表現する文章を書くことができるようになることを目指す。文章の基礎、自己紹介文を書く、報告文を書く、論文を書く、志願書を書くなどのトピックを定め、講義・実作・講評を行う。「話す訓練」を毎回ペアワークやグループワークによって行い、受講生の協働による学びを重視する。</p>	
	キャリア・デザイン概論	<p>大学期は4年間であるが、その内、授業に専念できる期間は意外と少なく、3年生後期にはもう就職活動が始まる。大学期をより有効に過ごすため、授業ではまず、大学へきた目的を確認し、次にその学識、経験をもって実社会で何をしていきたいか、を考える。さらに自己理解と職業理解について学び、卒業後の自分のビジネス・キャリアをイメージし、そのために大学で何を修得したいのかを明確化し、それに合った履修や学生生活の送り方を考えていく。本授業は「経営学特殊講義（キャリアデザイン）」と重複履修することができる。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
選択科目（総合基礎科目）	アカデミック・スキルズ（個別指導重視型）	大学生活で求められるアカデミック・スキルのうち「情報を調べる・学術的文章を書く・発表する」技術を実践して身につけることが目的である。「情報を調べる」では、データベース、学術雑誌などの多様な情報を収集・分析して適正に判断し、モラルに則って効果的に活用する情報リテラシーを学ぶ。「学術的文章を書く」では、感想文や作文とは異なるアカデミック・ライティングを「文章の型」の活用を通して学ぶ。型を活用することで、だれでも一定レベルのレポートが書けるようになる。また、大学での課題はレポート以外に発表（プレゼンテーション）という形式も多いため、「発表する」では、調査結果や自分の意見を他者に効果的に伝えるためのプレゼンテーション技法を学ぶ。同時に他者の発表を聴くための傾聴法を学ぶことで、双方向的な授業空間を創出する。	
	アカデミック・スキルズ（講義型）	大学生活で求められるアカデミック・スキルのうち「情報を調べる・学術的文章を書く・発表する」技術を身につけることが目的である。「情報を調べる」では、データベース、学術雑誌などの多様な情報を収集・分析して適正に判断し、モラルに則って効果的に活用する情報リテラシーを学ぶ。「学術的文章を書く」では、感想文や作文とは異なるアカデミック・ライティングを「文章の型」の活用を通して学ぶ。型を活用することで、だれでも一定レベルのレポートが書けるようになる。また、大学での課題はレポート以外に発表（プレゼンテーション）という形式も多いため、「発表する」では、調査結果や自分の意見を他者に効果的に伝えるためのプレゼンテーション技法を学ぶ。	
	近代日本と学習院	幕末の京都に生まれ、明治維新を経て華族の教育機関として改めて東京に開設された学習院の160年余にわたる歴史は、日本近代、現代の歴史と深く関わっている。私たちが日常を送る身近な場所を題材に、ひろく近現代史の諸問題を考えることが授業の目的である。学習院の歴史を軸としながら政治・文学・教育論などを多岐にわたって考察する。	
必修科目（総合基礎科目）	外国語 I R（中級） 英語	この授業では、将来教育学分野の専門的な学術論文などを読むための準備段階として、教育に関する身近な話題について書かれた比較的読みやすい教育学についての読み物を教材として用い、論理的な文章構成を持った英文を正確にまたある程度のスピードで読み、必要な情報を得るためのリーディングスキルを身につけることに主眼を置く。また、分野を問わずアカデミックな文章によく使われる語彙や、教育学分野の需要語彙など、将来専門的な文献を読んだり論文を書いたりするのに最低必要となる語彙を拡充することも目標の一つとする。	
	外国語 I C（中級） 英語	この授業では、キャンパス内外での毎日の活動に関連した題材に関して、自分の意見や感情を表現できるような会話能力の向上を目指す。模擬面接シミュレーションなどを取り入れて、より高いレベルの練習をすることも予定している。発音がより自然なものとなるような方法についても教授する。他の人との英語でのコミュニケーションにおける会話および聞き取り能力を向上させるために多くの機会を与えられるよう、2人組あるいはグループ討論なども積極的に行っていく。	
	外国語 I R（上級） 英語	英語が事実上の国際共通語であり、その重要性がますます高まっていることは、疑う余地のないことである。一般に認識されているように教育の世界もその例外ではなく、むしろ教育の世界においてこそ英語が重要視されていると言っても過言ではない。この授業では共通語としての英語、特に教育の分野における英語の重要性を念頭におき、将来教育学の論文等を読むことも想定しながら、語彙力、文法力、読解力、速度の技法等英語を読む上で必要となる力と技術を総合的に養成することを目指す。	
	外国語 I C（上級） 英語	英語中級単位修得者及びそれと同程度の実力がある者を対象とし、社会生活に必要な程度の英語表現力を身につけることを目標とする。L Lで行う場合もある。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
選択科目（総合基礎科目） スポーツ・健康科学 外国語科目	スポーツ・健康科学 I	年間を通して、健康・体力の維持増進を図ることを目的とする。毎授業時間の始めに体力トレーニングを行い、受講生各自が実習ノートに記録をつける。また、健康及び体力に関わる講義、及びトレーニングルームを使用した授業を年に数回行う。原則としてスポーツ種目を1つ選択し、実践を通して、技能の向上とともにゲームの進め方や、他者との協力などを学ぶ。技能面では、各スポーツごとに段階的に練習し、ゲームを実践していく。	
	外国語 II B（初級） 中国語	中国語文法の骨格を理解し、身につけることを目的とする。第1学期は文法の参考書を教科書に用い、半年で重要な文法事項の説明を終える。夏休みの宿題として上級中国語レベルの文章を与え、その発音・単語の意味を調べ、訳文を作成する作業を課す。第2学期は夏休みの宿題をベースに、教室で課題とした文章を検討し、第1学期に習った文法事項を読解練習の中で確認する。学年末には、初見の文章を、辞書・文法参考書を頼りに訳す試験を行う。また、毎週、重要文法事項を含む例文を約10ずつ暗記してもらい、中国語の聞き取り（ピンイン・漢字・日本語訳）及び日本語からの中国語訳	
	外国語 II C（初級） 中国語	本授業は、中国語初心者を対象とし、1年間の履修を通じて、中国語の発音、基本的文法、一般的な表現と、日常会話力を身につけることを目指す。新しい外国語の習得は、努力と忍耐が必要であり、履修する学生は、予習と復習、及び積極的な授業への参加が望まれる。授業の進め方は次の通り。全員参加を原則とし、一人ずつ発音を練習し、全員で中国語の朗読を繰り返す。次に学習した単語と表現を用いて、簡単な中国語の文を作る。	
	外国語 II B（初級） 朝鮮語	朝鮮語文法の初級クラスである。前期は、ハングル文字の読み書きからはじめ、母音の種類と発音、子音の種類と発音、パッチムの仕組みと発音、丁寧な言い方、漢教詞・固有教詞の種類と発音。パッチムの仕組みと発音：激音化、用言・体言の丁寧形、用言の連用形、丁寧な命令形などを学習する。後期は、パッチムの仕組みと発音：無音化、過去形と用言の否定形、連体形、パッチムの仕組みと発音：舌側音化、意思・推量・婉曲、条件文と補助用言：動作の進行・静止、用言の変則活用などを扱う。年度末には、辞書を片手に、簡単な文章の講読・作文ができるようになる。ことを目指す。	
外国語 II C（初級） 朝鮮語	朝鮮語の文字と発音を習って、日常良く使われる簡単な会話文を、基本語彙と基本文型を学習して、聞き・話す能力を身に付ける。言葉の中で、日本語との類似点・相異点を探りつつ、韓国の歴史と文化への関心を高めて行く。また、現在韓国への訪問や観光の際、役に立つように、買物・宿泊・乗物等の実用会話の習得を目指す。そのうえ授業が楽しくなるように、会話文につなげて、韓国の生活や風習の話をしてしながら進行する。 授業方法としては、まず簡単な文法の説明を聞く、次に教師の発音を聴いて、何度もついて読む。5分ぐらい一人で練習し、二人で会話をする。次に新しい単語を使って作文をし、その解答を教師が修正して、正しい文章を学生について講ませる。		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
選択科目 (総合基礎科目)	スポーツ・健康科学Ⅱ	スポーツ健康科学Ⅰで習得した内容をより発展させ、スポーツライフの形成の大切さを知り、そのことがもたらす豊かな、充実した人生、生涯スポーツへの一つの契機となることを図る授業である。スポーツの持つ楽しさ、技術の発展的深さ、遠さなど、文化的側面を学習する。	
	初等情報処理 1	現代社会において、計算機の利用法は多岐にわたり、計算機を使いこなすことが現代人の必須条件となっている。たとえばレポート（一般社会では報告書）はワープロで書くことが普通になり、就職情報の取得や資料請求などでインターネットを利用することが多くなっている。本講義では、計算機を文房具代わりとして使いこなせるようになることを目的としている。情報処理に関する初心者を対象にするが、学生生活中必要な事項を学ぶので、できるだけ早い時期に履修することが望ましい。また、本講義では、世界各国に接続されたインターネットの使用法や、それを使用する際に起こり得るトラブルの回避法や情報倫理について学び、実用的文房具としてのワープロ、表計算ソフトの必要最小限の知識が得られるようにする。	
	初等情報処理 2	「初等情報処理 1」と目的は同じであるが、「初等情報処理 2」では各ソフトウェアをよりうまく使いこなすために、より詳しい使い方を学ぶ。各ソフトのデータを有機的に連携させることができるようにし、高度なプレゼンテーションの方法を学ぶ。	